

VI. 日本近世・近代障害関連研究文献目録

高野, 信治

<https://doi.org/10.15017/7172691>

出版情報：障害史研究. 6, pp.191-231, 2024-03-28. Society for Disability History Studies
(Shōgaishi Kenkyūkai)

バージョン：

権利関係：



Ⅵ. 日本近世・近代障害関連研究文献目録

（高野 信治 編）

〔凡例〕

- 1、本目録は、日本において1945年～2021年の間に刊行（復刊含む）された著作物（書籍・論文など）を採録した。
- 2、著者（編者）、書名・論文名、出版社・掲載雑誌、刊行年、主題・キーワードの項目で構成した。
- 3、前近代では、近現代のような障害概念は未成立といえる。このため、近世についてはそれに該当すると考えられる事象を主題とする著作物を採録した。
- 4、障害は、広く諸事象のなかで捉える必要もあるとの立場から、採録にあたっては、直接障害事象を対象にしないものの関連が想定される主題を扱う著作物を、適宜採録した。
- 5、障害学、教育学、福祉学、医学史などの各専門領域では、近代史を中心に多くの障害関連の著作物が刊行されている。しかし、歴史のなかで障害事象を考察する本科研の目的に鑑み、専門性が高い著作物は、取捨して採録した。したがって、限定的な採録の欠を補う意味で、関連専門領域の目録類を適宜、採録した。加えて、ジェラルド・グローマー『瞽女と瞽女唄の研究』研究篇・資料篇、名古屋大学出版会、2007年、中村満紀男編『日本障害児教育史』明石書店、2018年のように、各主題に即した詳細な文献目録類を付す著作物もあるので参照されたい。
- 6、各著作物には、以下の基準で、主題・キーワードを付した。
 - a) 直接、障害を主題としないしその性格が強い著作物には、障害のキーワードを付し、これに関連するキーワードを併記する場合もある。障害種別（身体障害、聴覚障害、視覚障害、精神障害、知的障害など）に即した著作物も多くあるので、その場合はこれらをキーワードとした。ただし、重複障害の場合は障害とした。
 - b) キーワードは、一般的な内容（障害のほか、医学・差別など）を旨とする。このうち運動は障害者団体の運動など、社会運動を指す。なお、特徴的で著作物の内容を直接示すと考えられる場合は、そのキーワード（痲痺神、異類、狂気など）を付した。
- 7、各著作物の配列は、以下の基準とした。
 - a) 年次順としたが、関連分は一括配列した項目がある。同じ刊行年のなかでは、直接、障害を主題としないしその性格が強い著作物を先掲し（主題・キーワードとして障害を付したものの）、そのあとに関連する分野のものを載せた。
 - b) 本目録は、近世・近代を対象にする著作物を採録するが、同一刊行年のなかでは、時代順ではなく、主題・キーワードを考慮し配列する。このため、近世と近代の著作物が混在する場合がみられるが、了とされたい。
- 8、以上の凡例内容にも示されるように、本目録は障害の歴史に関わる著作物を網羅したものではない。また、掲載に値する著作物の欠も想定される。これらも了とされたい。
- 9、本目録作成を通じた考察を、高野「障害史研究をめぐる覚書ー通史・総合史・生活史ー」『障害史研究』5、2024年として草したので、あわせて参照されたい。
- 10、本目録作成にあたっては、中村友紀（九州大学）、樋口裕二（大阪社会福祉史研究会）、丸本由美子（金沢大学）の協力を得た（所属は協力時）。記して感謝の意を表する。

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1	竹内利美「乞食」（『日本社会民俗辞典 1』誠文堂新光社、1952年）	民俗、差別
2	堀一郎「熊野比丘尼と盲巫」（『我が国民間信仰史の研究』創元社、1953年）	視覚障害、宗教
3	桂井和雄『土佐の民俗と人権問題』（高知県友愛会、1953年）	民俗、人権
4	稲田正次「廃藩置県における人権制度の端緒」（『社会科学論集』1、1954年）	人権
5	金田一京助「盲婦タウクノ伝承の詞章」（『国学院雑誌』56(4)、1955年）	視覚障害、伝承
6	榊原清「日本盲教育文化史」（『教育文化史大系Ⅶ』金子書房、1955年）	視覚障害、教育
7	荒川勇「ろう教育史」（『教育文化史大Ⅹ』金子書房、1956年）	聴覚障害、教育
8	松本保平「日本肢体不自由児教育史」（『教育文化史大Ⅹ』金子書房、1956年）	身体障害、教育
9	速水保孝『憑きもの持ち迷信』（松林書店、1956年）	憑物
10	碓井隆次「江戸時代の捨子禁令（上）（下）：近世以降の児童問題」（『社会問題研究』7(3)、8(1)、1957年）	捨子
11	文部省『盲聾教育八十年史』（文部省、1958年）	障害、教育
12	小林計一郎「癲病人の市役徴収権」（『日本歴史』115、1958年）	ハンセン病
13	永島福太郎「『癲病人の市役徴収権』を読んで」（『日本歴史』117、1958年）	ハンセン病
14	石塚尊俊『日本の憑きもの』（未来社、1959年）	憑物
15	水野都津生「『瞽女』聞き書」（『伊那』8(1)、1960年）	視覚障害
16	石上堅「盲目文芸発想序説」（『日本文学論究』21、1962年）	視覚障害、文芸
17	森銑三「一代男に不具者なし」（『新文明』13(6)、1963年）	障害
18	大村沙華「武士・僧侶・盲人・お店者・素一分・大一座」（『解釈と鑑賞』28(3)、1963年）	視覚障害
19	三木安正「精神薄弱史研究の意義と課題」（『精神薄弱問題史研究紀要』1、1964年）	知的障害
20	津曲裕次「精神薄弱教育史研究〔Ⅰ〕 一歴史観及び方法論の問題一」（『精神薄弱問題史研究紀要』1、1964年）	知的障害
21	伊藤隆二「知能観の歴史的考察（Ⅰ）」1（『精神薄弱問題史研究紀要』1、1964年）	知能観
22	長岡博男「民間医療の民俗とその基盤」（『日本民俗学』33、1964年）	医療
23	新城常三『寺社参詣の社会経済史的研究』（塙書房、1964年）	宗教、参詣
24	衣笠安喜「近世における部落差別思想」（『部落問題研究』17、1964年）	差別、賤民
25	中山太郎『日本盲人史』（八木書店、1965年）	視覚障害
26	加藤康昭「明治初期における盲・聾教育の発足過程について」（『東京教育大学教育学研究集録』4、1965年）	障害、教育
27	津曲裕次「精神薄弱教育史研究〔Ⅱ〕 一歴史の構成の考察（1～2）一」（『精神薄弱問題史研究紀要』2～3、1965年）	知的障害、教育
28	伊藤隆二「知能観の歴史的考察（Ⅰ）」2～3（『精神薄弱問題史研究紀要』2～3、1965年）	知能観
29	明石光麿「中古説話集にみえる宿業観」（『仏教文学研究』3、1965年）	説話、宿業
30	佐古田好一『人権の歴史』（部落問題研究所、1965年）	人権
31	荒井貢次郎「人間賤視の構造的諸問題」（『東洋学研究』1、1965年）	差別
32	石田英一郎『桃太郎の母』（講談社、1966年）	説話
33	高橋梵仙「『子おろし』と『まびき』」（『大東文化大学紀要』4、1966年）	命
34	佐竹昭広「無知と愚鈍：物くさ太郎のゆくえ」（『文学』35(2)、1967年）	知的障害
35	斎藤政雄「塙保己一の蔵書」（『温故叢誌』23、1967年）	視覚障害
36	中野善達・加藤康昭『わが国特殊教育の成立』（東峰書房、1967年）	障害、教育
37	浅尾紘也「精薄児教育における分団教育の歴史的考察 一大正新教育との接点において一」（『精神薄弱者問題史研究紀要』5、1967年）	知的障害、教育
38	大島正徳「京都市に於ける精薄児教育の成立過程」（『精神薄弱者問題史研究紀要』5、1967年）	知的障害、教育

VI. 日本近世・近代障害関連研究文献目録

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
39	小林計一郎「善光寺の癲病人部落」（『日本歴史』233、1967年）	ハンセン病
40	荒井貢次郎「都市賤民行政史の基礎的考察」（『東洋大創立80周年記念論文集』、1967年）	社会、賤民
41	谷合侑「中世における民衆の中の盲人像 ―狂言にあらわれた盲人―」（『東京教育大学教育学部附属盲学校・研究紀要』2、1968年）	視覚障害、芸能
42	小川克正「16世紀の精神薄弱児読み書き指導書」（『精神薄弱問題史研究紀要』6、1968年）	知的障害、教育
43	稲垣正利「就学義務の免除・猶予規定に関する一考察 ―明治期における成立過程を中心に―（その1）」（『精神薄弱問題史研究紀要』6、1968年）	障害、教育
44	高坂正顕『近世日本の人間尊重思想』（上・下）（福村出版、1968年）	人間
45	日本仏教学会編『仏教の人間観』（平楽寺書店、1968年）	宗教、人間
46	大藤ゆき『児やらい 産育の民俗』（岩崎美術社、1968年）	産育
47	高田衛「国学における生命思想論序説 ―本居宣長を中心に―」（『文学』36(12)、1968年）	命
48	小林計一郎「捨子考」（『日本歴史』235、1968年）	捨子
49	大鹿久義「塙保己一検校研究文献綜覧 稿」（『温故叢誌』25、1969年）	視覚障害、目録
50	佐藤独嘯「仏教上より見たる塙検校」（『温故叢誌』25、1969年）	視覚障害、宗教
51	吉沢晶三「わが国聴力障害者の歴史」（『みんなで未来をきりひらこう』（全障研早稲田大学サークル出版委員会）2、1969年）	聴覚障害
52	伊藤幸恵「わが国における障害児の「教育をうける権利」の歴史 ―戦前における障害児の教育機会―」（『教育学研究』36(1)、1969年）	障害、教育
53	清水寛「わが国における障害児の「教育をうける権利」の歴史 ―憲法・教育基本法制下における障害児の学習権―」（『教育学研究』36(1)、1969年）	障害、教育
54	富士川游『日本疾病史』（東洋文庫）（平凡社、1969年）	病気
55	呉哲男「不具の物知人―伝承文芸に見る詭弄の論理―」（『古典学』3、1970年）	障害認識、文学
56	藤池良雄「瞽女」（『伊豆史談』85、1970年）	視覚障害
57	北川忠彦「狂言とかたわ者」（『民俗芸能』40、1970年）	芸能、障害
58	前田愛「幕末における狂」（『国文学』15(11)、1970年）	狂
59	古川三樹『見世物の歴史』（雄山閣、1970年）	芸能
60	鎌田浩「幕藩体制における武士家族法」（基礎法学叢書1）（成文堂、1970年）	法、武士家族
61	井上正一「不具の子を捨てる民俗：霊異記の民俗史料」（『日本歴史』282、1971年）	障害、民俗
62	谷合侑「江戸時代前期の盲人の生活」（『東京教育大学附属盲学校・研究紀要』5、1971年）	視覚障害、生活
63	稲垣正利「就学義務の猶予・免除」の歴史」（『精神薄弱児研究』149、1971年）	障害、教育
64	窪島務「昭和ファシズム期における精神薄弱教育観について」（『精神薄弱児研究』152、1971年）	障害、教育
65	一宮俊一「わが国における初期の精神薄弱教育の性格」（『徳島大学学芸紀要 教育科学』19、1971年）	知的障害、教育
66	川勝政太郎「勸進僧に関する考察」（『大手前女子大学論集』5、1971年）	勸進
67	高柳金芳『江戸時代非人の生活』（雄山閣、1971年）	賤民、生活
68	高柳金芳『江戸時代部落民の生活』（雄山閣、1971年）	賤民、生活
69	太田典礼「優生保護法の歴史と思想」（『思想の科学』118、1971年）	優生
70	碓井隆次他編『近代社会事業史文献目録』（日本生命済生会、1971年）	社会事業、目録
71	神津善三郎「信州における特殊学校のあゆみ（学制期・教育令期）：疎外されたこどもたちの教育の歴史」（『長野県近代史研究』3、1972年）	障害、教育
72	佐野静雄「明治時代における岩手県の劣等児教育 ―菊池辰三郎「劣等児教育の大要」を中心として―」（『精神薄弱問題史研究紀要』10、1972年）	障害、教育
73	永島利明「精薄という言葉の変遷 ―他の障害との関連において―」（『教育と医学』20(3)、1972年）	知的障害、語彙
74	加藤康昭『盲教育史研究序説』（東峰書房、1972年）	視覚障害、教育
75	杉田裕「精神薄弱児の教育史」（『精神薄弱問題史研究紀要』11、1972年）	知的障害

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
76	杉田裕・大井清吉『東京・精神薄弱教育年表』（精神薄弱教育資料研究会、1972年）	知的障害
77	永島利明「障害者と見世物芸人：障害者の処遇史に関する一考察」（『特殊教育学研究』10(2)、1972年）	芸能
78	服部敏良「平田篤胤の医学」（『皇学館論叢』5(4)、1972年）	医学
79	小関藤一郎「明治期の医師の倫理と特質」（高橋幸八郎編『日本近代化の研究』上、東京大学出版会、1972年）	医師
80	吉田禎吾『日本の憑きもの』（中公新書）（中央公論社、1972年）	憑物
81	北川健「近代国民教育における疎外と差別 ―明治大正期山口県教育に見る貧困と差別と権利―」（『山口県地方史研究』28、1972年）	差別、教育
82	三沢義一「日本人の障害者観」（『教育と医学』21(1)、1973年）	障害認識
83	鈴木昭英「瞽女の民間信仰」（『日本民俗学』85、1973年）	視覚障害、宗教
84	森田一郎「瞽女「小林ハル女」の話」（『高志路』228、1973年）	視覚障害
85	荒川勇「戦前の文部省管制に見る特殊教育」（『精神薄弱問題史研究』13、1973年）	障害、教育
86	加藤康昭「障害児教育史研究の課題 ―障害者の生活と教育欲求―」（『精神薄弱問題史研究紀要』14、1973年）	障害、生活
87	清水寛「精神遅滞児教育問題の社会・経済史的背景 ―「近代的貧困」とのかかわりを中心として―」（『精神薄弱児研究』181、1973年）	障害、貧困
88	関根邦之助「疱瘡神について」（『日本歴史』301、1973年）	疱瘡神
89	大藤時彦「産の忌」（『日本常民文化紀要』1、1973年）	産育
90	藤本衛彦『日本見世物史考』（再版）（雄山閣（初版1927『日本風俗史講座』7）、1973年）	芸能
91	関山和夫『説教の歴史的研究』（法蔵館、1973年）	説教
92	榎垣実『日本の忌みことば』（岩崎美術社、1973年）	語彙、禁忌
93	河野勝行『日本の障害者』（ミネルヴァ書房、1974年）	障害
94	河野勝行他『講座・障害者のあゆみ』（1～23）（『みんなのねがい』（全国障害者問題研究会出版部・雑誌）58～79、1974～76年）	障害、通史
95	加藤康昭『日本盲人社会史研究』（未来社、1974年）	視覚障害
96	井上精三「筑前盲僧と筑前琵琶」（『福岡地方史談話会会報』14、1974年）	視覚障害、芸能
97	佐久間惇一「下越瞽女の子弟系譜について」（1）（2）（『高志路』234～235、1974年）	視覚障害
98	水野都津生「続「瞽女」聞き書」（『伊那』22(7)、1974年）	視覚障害
99	桜井徳太郎『日本のシャマニズム』上巻（吉川弘文館、1974年）	視覚障害、宗教
100	石部元雄「肢体不自由教育史」（梅根悟監修『世界教育史大系33 障害児教育』講談社、1974年）	障害、教育
101	高瀬安貞「障害者の人権と看護：障害者の歴史と現状」（『看護学雑誌』38(7)、1974年）	障害、人権
102	永島利明「障害者の生活史考 1～2：特に放浪生活を中心として」（『教育と医学』22(3)、22(5)、1974年）	障害、生活
103	清水寛「障害者福祉の思想的課題（Ⅰ）」（『社会福祉研究』15、1974年）	障害、福祉
104	高橋精一「江戸時代の社会救済：穢多・非人の社会と社会救済」（『経済論集』（大東文化大）20、1974年）	賤民、救済
105	白田甚五郎他編『全国昔話資料集成』全41巻（岩崎美術社、1974年）	伝承
106	中山茂「医者発想：日本人の法則観」（『思想』603、1974年）	医者
107	天野武「産育習俗の側面：加賀・能登の育児民具の場合」（『日本民俗学』93、1974年）	産育
108	佐藤親雄「障害者観考1：狂言にみる障害者観」（『東京教育大学教育学部紀要』21、1975年）	障害認識
109	岩瀬博編著『瞽女の語る昔話 ―杉本キクエ唄昔話集―』（三弥井書店、1975年）	視覚障害
110	谷省吾「失明の跡部良顕：特に「安座傳」の成立との関係」（『皇学館論叢』8(2)、1975年）	視覚障害
111	藤本文朗「まちと障害者の歴史」（『障害者問題研究』5、1975年）	障害、地域社会
112	津曲裕次「精神薄弱教育史研究序説 ―白痴教育史序章―」（『東京教育大学教育学部紀要』21、1975年）	知的障害、教育

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
113	清水寛「障害者福祉の思想的課題（Ⅱ）」（『社会福祉研究』16、1975年）	障害、福祉
114	布引敏雄「はしか犬」（『日本歴史』331、1975年）	医療
115	坂本和夫「小諸藩の「種痘宣伝ビラ」について」（『千曲』（東信史学会）1（4）、1975年）	医療
116	岸田国土『日本人畸形説 日本教養全集 17』（角川書店、1975年）	身体
117	森山重雄「近世武家の狂気と美意識一衆道について」（『解釈と鑑賞』40（1）、1975年）	狂気
118	柳田國男『禁忌習俗語彙』（国書刊行会（1938版復刻）、1975年）	語彙、禁忌
119	好見真理子「仙台藩の赤子養育仕法」（『精神薄弱問題史研究紀要』18、1975年）	産育
120	真野俊和「先祖・祖神・守護神」（『社会伝承研究』5、1976年）	伝承
121	石塚英夫「徳川幕府刑法における刑事責任能力 一乱心者を中心として」（『石井良助先生還暦祝賀法制史論集』創文社、1976年）	責任能力、精神障害
122	荒川勇他『障害児教育史』（福村出版、1976年）	障害、教育
123	中山太郎『日本盲人史 復刻』（八木書店、1976年）	視覚障害
124	中山太郎『日本盲人史 続 復刻』（八木書店、1976年）	視覚障害
125	清水寛「障害者の発達権保障の歴史 一国際的民主運動と障害者の権利」（川合章他編『障害者教育』（講座日本の教育8）新日本出版社、1976年）	障害、権利
126	清水寛「戦後障害者福祉と発達保障」（吉田久一編『戦後社会福祉の展開』ドメス出版社、1976年）	障害、福祉
127	豊島律「『晩熟生学級』と信州自由民権運動」（『社会福祉研究所報』（熊本短期大学附属社会福祉研究所）5、1976年）	障害、運動
128	清水寛他「戦後日本の障害者教育」（『講座 日本の教育8 障害者教育』新日本出版社、1976年）	障害、教育
129	日本社会事業大学図書館『精神薄弱児・者の福祉と教育の文献目録』（日本社会事業大学図書館、1976年）	知的障害、目録
130	佐々木宏幹「聖痕・差別・不浄観」（『伝統と現代』40、1976年）	差別
131	阿部年晴「秩序と穢れ 一差別の周辺」（『伝統と現代』40、1976年）	差別
132	石川了『乞児奇伝』（翻刻）（野田寿雄教授退官記念論文集刊行会『日本文学新見 研究と資料』笠間書院、1976年）	賤民
133	五来重「庶民信仰における減罪の論理」（『思想』622、1976年）	宗教
134	森田孝昭「芸能に対する差別：近世芸能者の身分階層について」（『紀要』〈跡見学園高・中〉3、1976年）	芸能
135	生瀬克己「近世後期における羣心の畸愁と所在 一近世庶民生活史への一視覚」（『桃山学院大学・社会学論集』9（2）、1976年）	差別、民衆
136	高田衛「清姫の角 一近世文化の聖と穢」（『伝統と現代』40、1976年）	文化、穢
137	服部敏良「昔の人の病気」（『日本歴史』340、1976年）	病気
138	小田晋「日本文化史における狂気概念と実態」（荻野恒一編『分裂病の精神病理』4 東大出版会、1976年）	狂気
139	武石彰夫編『仏教歌謡集成 正統』（大東文化大学付属東洋研究所、1976年）	歌謡、宗教
140	中野善達「心身障害教育・福祉の歴史的展開」（佐藤親雄他編『心身障害の教育と福祉』図書文化社、1977年）	障害、福祉
141	津曲裕次「精神薄弱者施設史研究序説」（『精神薄弱問題史研究紀要』12、1977年）	知的障害、施設
142	加藤康昭「盲人の生活と民衆文化」（大石慎三郎編『地方文化の日本史6 江戸と地方文化（一）』文一総合出版、1977年）	視覚障害、生活
143	桜井徳太郎『日本のシャマニズム』下巻（吉川弘文館、1977年）	視覚障害、宗教
144	村田茂『日本の肢体不自由教育の発足 一その歴史的発展と展望一』（慶応通信、1977年）	身体障害、教育
145	津曲裕次「『精神薄弱問題』史関係文献資料目録」（1）～（10）（『精神薄弱問題史研究紀要』12、1977年）	知的障害、目録
146	鶴沼裕子・古川哲史他編『笑い日本人：日本思想史講座 別巻1 日本人論』（雄山閣、1977年）	笑い

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
147	好見真理子「仙台藩赤子養育仕法思想史的研究：中間層の養育観の思想的役割について」（『日本思想史研究』（東北大学文学部日本思想史学研究室）9、1977年）	養育
148	菅谷章『日本医療政策史』（日本評論社、1977年）	医療
149	全国ハンセン氏病患者協議会編『全患協運動史 ―ハンセン病患者の闘いの記録―』（一光社、1977年）	ハンセン病
150	加藤康昭「障害者に対する穢れと忌みの思想（＜特集＞障害児教育の歴史）」（『季刊障害者問題研究』13、1978年）	障害認識
151	清水寛他「障害者問題史文献目録と解説」（『季刊障害者問題研究』13、1978年）	障害、目録
152	青木美智男「書評・加藤康昭著『日本盲人社会史研究』（『季刊障害者問題研究』16、1978年）	視覚障害
153	生瀬克己「近世領主の障害者保護について」（『部落解放史ふくおか』48、1978年）	障害、救済
154	文部省編『特殊教育百年史』（東洋館出版社、1978年）	障害、教育
155	岡田靖雄「わが国の精神疾患史の点描」（日本医史学会編『図録日本医事文化史料集成』4、三一書房、1978年）	精神障害
156	山田明「昭和戦前期の精神薄弱者保護・教育事業における八幡学園の位置」（『季刊障害者問題研究』13、1978年）	知的障害
157	津曲裕次「痴者教育史の研究Ⅰ ―初期痴者論の歴史的関心事―」（『精神薄弱問題史研究紀要』22、1978年）	知的障害
158	小出進・金子健「本邦特殊教育関係部門別研究動向及び文献目録 精神薄弱部門」（『特殊教育学研究』16(2)、1978年）	知的障害、目録
159	清水寛他「障害者問題史文献目録と解説」（『季刊障害者問題研究』13、1978年）	知的障害、目録
160	盛田嘉徳『河原巻物』（法政大学出版局、1978年）	賤民
161	中村義雄『魔よけとまじない』（塙新書）（塙書房、1978年）	呪術
162	服部敏良『江戸時代医学史の研究』（吉川弘文館、1978年）	医学
163	村岡空「病氣と仏教」（『大法論』45(1)、1978年）	病氣、宗教
164	中畠邦「幕藩期女子教育論小考：良妻賢母主義教育の起点」（『史艸』19、1978年）	教育
165	生瀬克己「近世初期における農家経営と「五体不具」（『同和問題研究』〈大阪市立大・同和研〉3、1979年）	障害、生活
166	横田弘『障害者殺しの思想』（JCA 出版、1979年）	障害、思想
167	二日市安『私的障害者運動史』（たいまつ社、1979年）	障害、運動
168	山田明・吉本哲夫「身体障害者運動の歴史と対策理念の発展」（児島美都子他編『障害者と社会保障』法律文化社、1979年）	障害、運動
169	清水寛「障害児教育義務制と教育史研究の課題」（『教育学研究』46(2)、1979年）	障害、教育
170	高山弘房『聾教育百年のあゆみ』（聴覚障害者福祉協会、1979年）	聴覚障害、教育
171	安藤房治「盲精薄教育関係文献目録」（『視覚障害教育・心理研究』1、1979年）	障害、目録
172	障害児教育図書総目録刊行会『障害児教育図書総目録』（教育図書総目録刊行会、1979年）	障害、教育、目録
173	清水寛・平田勝政・津田敬子「障害児教育義務制関係文献目録」（『教育学研究』46(2)、1979年）	障害、教育、目録
174	日本医史学会編『図録日本医事文化史料集成 第五巻』（三一書房、1979年）	医事、文化
175	立川昭二『近世病草紙 江戸時代の病氣と医療』（平凡社選書63）（平凡社、1979年）	病氣、医療
176	田代国次郎編『広島社会福祉史資料 3』（著者発行・広島県、1979年）	社会福祉
177	近藤祐昭「仏教と部落差別」（『紀要』〈同朋学園・仏教文化研〉1、1979年）	宗教、賤民
178	高橋精一「江戸時代の社会救済：乞胸・猿飼の共同体的生活」（『紀要』〈大東文化大〉17、1979年）	賤民、救済
179	北見俊夫「忌詞」（『講座日本の民俗宗教』4、弘文堂、1979年）	語彙、禁忌
180	倉塚暉子『巫女の文化』（平凡社、1979年）	呪術
181	北原糸子「都市における貧困と狂気：東京府癲狂院の成立をめぐる」（津田秀夫還暦記念会編『近世国家の解体と近代』塙書房、1979年）	狂気、貧困

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
182	山懸博「重症心身障害児施設の歴史」（『東京都衛生局学会誌』65、1980年）	障害、施設
183	加藤康昭他「学校教育法における障害児教育規定の成立とその意義」（『季刊教育法』36、1980年）	障害、教育
184	塙和明・新井早苗「視覚障害関係文献目録」（『視覚障害教育・心理研究』1(2)、1980年）	視覚障害、目録
185	池田英俊「仏教福祉とは何か：福祉理念の歴史的展開」（同編集委員会編『現代仏教を知る大事典』金花舎、1980年）	宗教、福祉
186	北原糸子「施療の論理：都市における貧困と病気への施策」（『芳賀先生古稀記念 日本社会史研究』笠間書院、1980年）	医療、貧困
187	緒方正清『日本産科学史』（2冊）（洪庵記念会、1980年）	医学
188	緒方正清『日本婦人科学史』（2冊）（洪庵記念会、1980年）	医学
189	瀬田勝哉「伊勢の神をめぐる病と信仰」（『人文学会雑誌・武蔵大』12(2)、1980年）	病気、宗教
190	宮本義己「中世後期乃至近世初期日本医学史の特質Ⅰ」（『國學院雑誌』81(4)、1980年）	医学
191	上田敏「障害の概念について」（『季刊障害者問題研究』27、1981年）	障害認識
192	河野勝行「障害者観の変遷と障害者をめぐるイデオロギー」（『季刊科学と思想』42、1981年）	障害認識
193	加藤康昭「形成期における障害児教育の思想—二つの権利思想」（『教育心理と近接領域』（茨城大学教育学部教養心理学研究室 [編]）6、1981年）	障害、教育
194	清水寛『発達保障思想の形成 —障害児教育の史的探究—』（青木書店、1981年）	障害、教育
195	小堀邦夫「五体不具の穢」（『神道史研究』29(2)、1981年）	障害
196	長谷川潮「「障害」に関わる児童文学および絵本のリスト」（『日本児童文学』27(7)、1981年）	障害、文学、目録
197	長谷川潮「なぜ？障害者—児童文学における障害者問題 序説」（『日本児童文学』27(7)、1981年）	障害、文学
198	福士直子「障害者のでてくる外国の子どもの本」（『日本児童文学』27(7)、1981年）	障害、文学
199	蛸島直「八丈島の病気観：民俗病因論の可能性」（『民俗学評論』180～189、1981年）	病気
200	社会保障研究所編『日本社会保障前史資料 1』（至誠堂、1981年）	社会保障
201	小林茂編『近世被差別部落関係法令集』（明石書店、1981年）	差別
202	小林茂編『定本近世被差別部落関係法令集』（明石書店、1995年）	差別
203	田中喜男「加賀藩非人小屋制成立の事情について」（『東北・北越被差別部落史研究』明石書店、1981年）	賤民
204	王丸勇『病跡学・史学叢談』（金剛出版、1981年）	医学
205	浅野美和子「民衆宗教の女人救済論」（『歴史評論』371、1981年）	救済
206	山森青硯『加賀藩社会福祉史（青硯文庫叢書：8）』（山森青硯、1981年）	福祉
207	苗木明子「産育習俗にみる健康観」（『精神薄弱問題史研究紀要』25、1981年）	健康
208	津田道夫『障害者教育の歴史的成立』（三一書房、1982年）	障害、教育
209	国立コロニーのぞみの園田中資料センター編『わが国精神薄弱施設体系の形成過程：精神薄弱者コロニーをめぐる』（心身障害者福祉協会、1982年）	知的障害
210	千賀忠夫「郷土の盲俳人「南厓」をめぐる人々」（『古河市史研究』7、1982年）	視覚障害
211	藤川達明・東村輝彦「洛北の地『岩倉』における精神障害者に対する処遇の歴史について」（『藍野病院医学雑誌』4(1)、1982年）	精神障害
212	馬渡尚子「わが国における肢体不自由児保護構想に関する一考察」（『障害児教育学研究 —荒川勇教授退官記念論文集—』、1982年）	身体障害
213	八木晃介「戦後の障害者政策と障害者解放運動」（全国障害者解放運動連絡会議編『障害者解放運動の現在』現代書館、1982年）	障害、運動
214	後藤安彦他『逆光の中の障害者たち：古代史から現代文学まで』（千書房、1982年）	障害、文学
215	「視覚障害関係文献目録」（『視覚障害教育・心理研究』3(1)、1982年）	視覚障害、目録
216	金子準二他編『日本精神医学年表 改訂増補』（牧野出版、1982年）	精神医学
217	浦野シマ『日本精神科看護史』（牧野出版、1982年）	看護

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
218	安永寿延「安藤昌益の身体観：直耕の世界」（『思想』698、1982年）	身体
219	逸見勝亮「傷痍軍人小学校教育養成所の設立」（『紀要』〈北大・教育〉40、1982年）	教育
220	沖縄の特殊教育史編集委員会編『沖縄の特殊教育史』（沖縄県教育委員会、1983年）	障害、教育
221	藤川達明・東村輝彦「洛北の地『岩倉』における精神障害者に対する処遇の歴史について」（『藍野病院医学雑誌』5（1）、1983年）	精神障害
222	生瀬克己『「孤独」と「放置」の精神史』（千書房、1983年）	障害
223	加藤康昭「日本における障害者問題史研究の現状と課題—身体障害者問題を中心に—」（『社会事業史研究』11、1983年）	身体障害
224	宇治郷毅・和田上英雄「「心身障害者関係文献目録」の刊行をおえて（書誌索引事例）」（『書誌索引展望』（日本索引家協会編）7（1）、1983年）	障害、目録
225	国際障害者年日本推進協議会『障害者関係総合図書目録』（国際障害者年日本推進協議会、1983年）	障害、目録
226	国際障害者年日本推進協議会『障害者関係映画総目録』（国際障害者年日本推進協議会、1983年）	障害、目録
227	五十嵐顕「書評・清水寛著『発達保障思想の形成』」（『季刊障害者問題研究』33、1983年）	思想
228	山田隆信「上田秋成の人間観 —『春雨物語』『樊噲』をめぐって—」（佐藤正英他編『日本倫理思想史研究』ベリかん社、1983年）	人間
229	森一貫「「天賦人権」と「優勝劣敗」：人権論争を手がかりに」（日本近代法制史研究会編『日本近代国家の法構造』木鐸社、1983年）	人権
230	藤井恵「江戸時代における行倒れ・捨子」（1）（2）（『大憲論集・西日本短大』23（1・2）、24（1・2）、1983年）	捨子
231	千葉徳爾・大津忠男『間引きと水子』（農山漁村文化協会、1983年）	命
232	河野勝行「戦争と障害者の前近代史：鉄砲伝来を中心に」（『季刊障害者問題研究』36、1984年）	戦争、障害
233	成田守「防長の盲僧」（『東洋研究』〈大東文化大〉69、1984年）	視覚障害
234	昼田源四郎「「守山領御用留帳」の精神医学的研究：江戸時代民衆の狂気観を中心に」（『精神神経学雑誌』86（9）、1984年）	精神障害
235	宇野日出生「禁制にみる当道座」（『紀要』〈京都歴史資料館〉1、1984年）	視覚障害
236	藤島岳・清水寛「戦前の保育・精神薄弱児研究」（『精神薄弱児研究』317、1984年）	知的障害、保育
237	高橋智・平田勝政・荒川智「障害者問題史文献目録」（『季刊障害者問題研究』36、1984年）	障害、目録
238	中村生雄「観音信仰と日本のカミ：とくに「自然」と「身体」の観点から」（『宗教研究』261、1984年）	宗教、身体
239	蛸島直「奄美一村落の病気観」（『民族学研究』49（2）、1984年）	病気
240	石田雄「日本における福祉観念の特質 —比較政治文化の観点から—」（東京大学社会科学研究所「福祉国家」研究会編『福祉国家4 日本の法と福祉』東京大学社会科学研究所、1984年）	福祉
241	岡田与好「「福祉国家」理念の形成」（東京大学社会科学研究所「福祉国家」研究会編『福祉国家4 日本の法と福祉』東京大学社会科学研究所、1984年）	福祉
242	吉田久一『日本貧困史：生活者の視点による貧しさの系譜とその実態』（川島書店、1984年）	生活
243	成田守『盲僧の伝承』（三弥井書店、1985年）	視覚障害、伝承
244	西田美昭「盲聾教育形成期における就学保障の展開：京都盲啞院の「発展」と「挫折」」（『社会科学研究』37（4）、1985年）	障害、教育
245	河原国男「江戸後期ヨーロッパ系医学書における運動障害認識に関する一考察」（『特殊教育学研究』23（2）、1985年）	障害、医学
246	田上隆司「現代文学に見る異化記号としての障害者」（『作新学院女子短期大学紀要』9、1985年）	障害、文学
247	北沢清司「昭和戦前期精神薄弱者保護法制定運動の検討」（『大正大学研究紀要佛教学部・文学部』70、1985年）	知的障害
248	山田明「近代障害者保護の展開（1）」（『共栄学園短期大学研究紀要 開学記念論文集』1、1985年）	障害、保護
249	津曲裕次他編『障害者教育史 —社会問題としてたどる外国と日本の通史—』（川島書店、1985年）	障害、教育
250	守屋茂『日本社会福祉思想史の研究』（同朋舎出版・京都、1985年）	福祉

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
251	山中至「江戸幕府法における御仕置御免願の制度（一）」（『熊本法学』46、1985年）	責任能力
252	山中至「日本近世刑事法の法構造の一側面 江戸幕府法における御仕置御免願の制度（二・完）」（『熊本法学』74、1992年）	責任能力
253	菅原憲二「近世京都の町と捨子」（『歴史評論』422、1985年）	捨子
254	北川忠彦他編『完訳日本の古典48 狂言集』（小学館、1985年）	芸能
255	高知県立図書館編『憲章簿 土佐藩法制史料 第5巻』（高知県立図書館、1985年）	法
256	大貫恵美子『日本人の病気観』（岩波書店、1985年）	病気
257	小泉凡「境界の神：日本人の病理観から」（『日本民俗学』159、1985年）	病気、宗教
258	昼田源四郎『疫病と狐憑：近世庶民の医療事情』（みすず書房、1985年）	憑物
259	波平恵美子『ケガレ』（東京堂出版、1985年）	穢れ
260	永原慶二「日本前近代の浄穢観念と身分差別」（『歴史学研究』555、1986年）	差別
261	松岡実「大分県盲僧資料 日田・圓滿寺文書」（『大分県地方史』123、1986年）	視覚障害
262	磯村英一他編『心身障害者 「講座・差別と人権」5』（雄山閣、1986年）	障害
263	牧山望『地神盲僧』（牧山望、1986年）	視覚障害
264	永井彰子「近世筑後の盲僧」（『福岡県地域史研究』5、1986年）	視覚障害
265	谷合侑「わが国における盲人歩行の歴史」（『第一〇回視覚障害歩行研究会論文集』、1986年）	視覚障害
266	加藤康昭「形成期の障害児教育の思想—西洋文明との出会いの中で—」（『茨城大学教育学部紀要（教育科学）』35、1986年）	障害、教育
267	山田明「明治初期京都府における障害者救助—『恤救名簿』掲載者の検討を中心に—」（『社会福祉学』27(2)、1986年）	障害、救済
268	山田明「近代障害者保護の展開（3）」（『共栄学園短期大学研究紀要』2、1986年）	障害、保護
269	山田明「近代障害者保護の展開（4）」（『共栄社会福祉研究』2、1986年）	障害、保護
270	生瀬克己「近世儒学者の障害者観覚書」（『桃山学院大学・総合研究所報』12(2)、1986年）	障害認識
271	生瀬克己編『障害者と差別語 健全者への問いかけ』（明石書店、1986年）	障害認識
272	池田敬正『日本社会福祉史』（法律文化社、1986年）	福祉
273	延広真治『落語はいかにして形成されたか：叢書 演劇と見世物の文化史』（平凡社、1986年）	芸能
274	吉田久一編『社会福祉の日本的特質 その形成と動向を探る』（川島書店、1986年）	社会福祉
275	小嶋英夫「障害児教育の歴史」（『総合リハビリテーション』15(4)、1987年）	障害、教育
276	身体障害者雇用促進協会編『身体障害者雇用促進協会十年史』（同協会、1987年）	障害、生活
277	生瀬克己「近世における見せ物と「五体不具」」（『差別とたたかう文化』5、1987年）	障害、芸能
278	五十嵐富夫『瞽女 旅芸人の記録』（桜楓社、1987年）	視覚障害
279	永井彰子「近世における筑前の盲僧」（『福岡県史 近世研究編 福岡藩（3）』福岡県、1987年）	視覚障害
280	大河原欽吾『点字発達史』（点字発達史復刊委員会、1987年）	視覚障害、補助
281	加藤博史「精神障害者処遇関係史 1」（『京都文教短期大学研究紀要』26、1987年）	精神障害
282	高橋智他「大正新教育と障害児教育の関係と構造」（『季刊障害者問題研究』48、1987年）	障害、教育
283	山田明「1910年代貧民街における障害者の生活形態—神戸新川地区・賀川豊彦の活動著作から—」（『共栄学園短期大学紀要』3、1987年）	障害、生活
284	中野敏子「障害者運動の展開」（一番ヶ瀬康子他編『講座障害者の福祉1 障害者の福祉と人権』光生館、1987年）	障害、運動
285	山田明「日本における障害者福祉の歴史」（一番ヶ瀬康子他編『講座障害者の福祉1 障害者の福祉と人権』光生館、1987年）	障害、福祉
286	大島蘭三郎『医学書誌論考』（思文閣出版、1987年）	医学
287	山口美男「古河の瘡病と蕃山」（『茨城史林』11、1987年）	病気

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
288	鎌田久子「産育習俗再考」（『成城文芸・成城大文芸学部』119、1987年）	産育
289	桜井絹江『母性保護運動史』（出版ドメス、1987年）	母性、運動
290	山田巖子「異常児誕生の伝承：昔話の異常児誕生譚」（『大学院紀要・文学研究科・東洋大』23、1987年）	異常、命
291	下出積興「身体観と日本の宗教」（『心身医学』27(1)、1987年）	身体、宗教
292	藤井正雄「仏教における“からだ”と“こころ”」（『G-Ten』17、1987年）	身心、宗教
293	服部敏良「孫引きのたたり」（『日本歴史』471、1987年）	宗教
294	山折哲雄『乞食の精神誌』（弘文堂、1987年）	賤民
295	川人正人「近世被差別民の生活と思想：徳島藩を中心として」（『鳴門史学』1、1987年）	賤民、生活
296	小林大二『差別戒名の歴史』（雄山閣出版、1987年）	差別
297	清水寛『障害者と戦争―手記・証言集』（新日本新書）（新日本出版社、1987年）	障害、戦争
298	津曲裕次「障害者問題史研究の課題と方法」（『障害者問題史研究』31、1988年）	障害
299	障害児教育学研究会「障害者問題史研究の動向と課題」（『障害者問題史研究』31、1988年）	障害
300	生瀬克己「近世の障害者観について」（『同和問題研究』（大阪市立大学・同和問題研究室）11、1988年）	障害認識
301	生瀬克己『障害者だから不幸なのか』（三一書房、1988年）	障害認識
302	高岡弘幸「都市と疫病：近世大坂の風の神送り」（『日本民俗学』175、1988年）	病気、民俗
303	中西裕「『死霊解脱物語聞書』と二十三夜信仰―不具神来訪譚としての累（かさね）説話」（『日本文学論叢（法政大学大学院）』17、1988年）	宗教、障害
304	渡辺信幸「宇佐宮と盲僧」（『大分県地方史』130、1988年）	視覚障害
305	永井彰子「社会集団としてみた近世筑後の盲僧」（『山岳修験』4、1988年）	視覚障害
306	石井正己「盲僧の早物語―語り物の表現と語り手―」（『学芸 国語国文学』22、1988年）	視覚障害
307	栗原光沢吉『点字器とのあゆみ』（あずさ書店、1988年）	視覚障害
308	加藤博史「精神障害者処遇関係史 2」（『京都文教短期大学研究紀要』27、1988年）	精神障害
309	菅田洋一郎・玉村公二彦「戦前の京都における障害児教育成立の諸前提 1 ―明治30年代における「特殊教育」の模索と提案を中心に―」（『京都教育大学教育実践研究年報』4、1988年）	障害、教育
310	西田美昭「『福祉見直し』と障害者福祉政策の動向」（東京大学社会科学研究所『福祉国家の危機』研究会編『転換期の福祉国家 下』東京大学社会科学研究所、1988年）	障害、福祉
311	迫ゆかり「岡山県における障害者に対する公的処遇の研究」第1～2報（『吉備地方文化研究』1～2、1988年）	障害、行政
312	神奈川県立第二教育センター『心身障害教育関係資料所在目録』（神奈川県立第二教育センター、1988年）	障害、教育、目録
313	岡雅彦編『伝承文学資料集成 14近世咄本集』（三弥井書店、1988年）	伝承、文学
314	光永洋子「国民優生法」（『女性史研究』23、1988年）	優生
315	小玉稜子「優生保護法」（『女性史研究』23、1988年）	優生
316	野間伸次「『健全』なる大日本帝国：国民優生法制定をめぐる」（『ヒストリア』120、1988年）	優生
317	山田巖子「狩猟・漁撈と異常児誕生」（『国文学論考』（都留文化大学国語国文学会）24、1988年）	異常、命
318	中村禎里「キツネ憑き仮考」（『朱』32、1988年）	憑物
319	佐々木勝『厄除け』（名著出版、1988年）	呪術
320	桑原洋子編『日本社会福祉法制史年表』（永田文昌堂、1988年）	福祉
321	大島蘭三郎『医学書誌論考』（思文閣出版、1988年）	医学
322	生瀬克己『近世日本の障害者と民衆』（三一書房、1989年）	障害、社会
323	永井彰子「福岡藩領における近世盲人芸能の展開」（『福岡県史 近世研究編 福岡藩（4）』、1989年）	視覚障害、芸能
324	石井正己「盲僧と盲巫の始祖伝承」（『口承文芸研究』12、1989年）	視覚障害

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
325	加藤博史「精神障害者処遇関係史 3」（『京都文教短期大学研究紀要』28、1989年）	精神障害
326	平田勝政「大正デモクラシーと盲聾教育 —「盲学校と聾啞学校令」の成立過程の分析を通して—」（『研究報告・教育科学・長崎大・教育』37、1989年）	障害、教育
327	清水寛・迫ゆかり「大正自由教育と障害児教育」（『埼玉大学紀要教育学部（教育科学）』38(2)、1989年）	障害、教育
328	村井龍治「仏教と障害者（1）障害者差別の源泉としての仏教思想の伝播」（『研究論集・四條畷学園女子短期大学』23、1989年）	障害、宗教
329	浅野美和子「民衆宗教における両性具有観」（大隅和雄他編『シリーズ女性と仏教 2 救いと教え』平凡社、1989年）	性、宗教
330	小和田美智子「近世静岡における堕胎・間引の一考察」（『地方史静岡』17、1989年）	命
331	高岡弘幸「見世物にされた疫病神—フリースと都市の想像力」（『春秋』315、1989年）	芸能、宗教
332	小松和彦『悪霊論』（青土社、1989年）	悪霊、宗教
333	新村拓『死と病と看護の社会史』（法政大学出版局、1989年）	病気
334	立川昭二『病いの人間史 明治・大正・昭和』（新潮社、1989年）	病気
335	手島一雄「近世後期国学における穢れと差別観念の考察 —記紀との比較検討を通して—」（『部落問題研究』98、1989年）	差別、穢れ
336	永田瑞「仏典における女性観の変遷 —三従・五障・八敬法の周辺—」（大隅和雄他編『シリーズ女性と仏教 2 救いと教え』平凡社、1989年）	宗教、女性
337	関山和夫『庶民仏教文化論：民主教化の諸相』（法蔵館、1989年）	宗教、民衆
338	村田熙「薩摩藩盲僧の檀家帳について」（小野重朗先生傘寿記念論文集刊行委員会編『南西日本の歴史と文化』第一書房、1990年）	視覚障害
339	杉野昭博「障害の文化分析—日本文化における『盲目のパラドクス』」（『民族学研究』54(4)、1990年）	視覚障害、文化
340	阿佐博『日本の点字—〇〇年のあゆみ』（日本点字制定—〇〇周年記念事業実行委員会、1990年）	視覚障害、補助
341	田上隆司「古川柳の心身障害者像」（『作新学院女子短期大学紀要』14、1990年）	障害、文学
342	高橋智・平田勝政・茂木俊彦「わが国戦前の精神医学領域における「精神薄弱」概念の歴史的研究：主要な精神医学雑誌の分析を中心に」（『特殊教育学研究』27(4)、1990年）	知的障害
343	月田みづえ「偏見意識の源をさぐる—障害者・貧困者・老人を話題とした江戸小咄から—」（『学苑』608、1990年）	偏見、障害
344	安永実「谷三山と松隈元庵の「筆談」」（『斯文』99、1990年）	障害、補助
345	亀畑義彦他「日本特殊教育思想史：明治前期の特殊教育思想（1）」（『紀要』（社会科学）〈北海道教育大〉40(2)、1990年）	障害、教育
346	小松昭雄「戦争と肢体不自由教育 —第二次大戦末期の肢体不自由学校・養護学級の実態から—」（松本昌介編『肢体不自由児とともに』田研出版、1990年）	身体障害、教育
347	迫ゆかり「岡山県の民間社会事業における障害者処遇」（『吉備地方文化研究・就実女子大・吉備地方文化研』3、1990年）	障害、社会事業
348	高橋智「戦後における障害・障害者概念関係文献目録（1）障害・障害者概念総論、「精神薄弱」概念」（『日本福祉大学研究紀要』81(1)、1990年）	障害、目録
349	宇井無愁「落語の民俗学（四）—つんぼゑびす」（『上方芸能』103、1990年）	芸能
350	宇井無愁「落語の民俗学（五）—与太郎」（『上方芸能』104、1990年）	芸能
351	蔵並省自『海保青陵経済思想の研究』（雄山閣、1990年）	思想、経済
352	土井作治「近世後期における医療思想の基盤（Ⅰ～Ⅱ）安芸国山県郡大朝村保生堂の場合」（『実学史研究』Ⅵ、Ⅷ、1990年）	医療思想
353	有馬澄子・西垣賀子「江戸期女性の生活に関する研究—『女重宝記』にみる出産と病気」（『東横学園女子短期大学紀要』25、1990年）	生活、病気
354	波平恵美子『病むことの文化』（海鳴社、1990年）	病気、文化
355	氏家幹人「江戸幕府における「老衰」と「隠居」に関する若干の考察」（『北の丸』22、1990年）	老い
356	大竹秀男「江戸時代の老人観と老後問題」（利谷信義他編『老いの比較家族史』三省堂、1990年）	老い

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
357	ひろたまさき「差別の諸相」解説（同編『日本近代思想大系22 差別の諸相』岩波書店、1990年）	差別
358	大森恵子「病氣平癒祈願と稲荷信仰一特に、疱瘡・瘡などの平癒祈願を中心にして」（『朱』（伏見稲荷大社）34、1990年）	天然痘、祈願
359	藤野豊「日本ファシズム成立期における「無癩県運動」」（『民衆史研究』40、1990年）	ハンセン病
360	藤野豊「ハンセン病対策史における優勢主義の台頭」（『論集』〈帝塚山大〉68、1990年）	ハンセン病
361	藤野豊「日本ファシズム成立期におけるハンセン病患者の解放闘争」（『民衆史研究』39、1990年）	ハンセン病
362	藤野豊「法律「癩予防ニ関スル件」の成立とキリスト教主義療養所」（『キリスト教史学』44、1990年）	ハンセン病
363	中野正司「近代の避病者と見捨てられた患者達」（徳島地方史研究会創立20周年記念論集刊行委員会編『阿波・歴史と民衆Ⅱ』、1990年）	病氣、差別
364	西田耕三校訂『仏教説話集成 1』（叢書江戸文庫16）（国書刊行会、1990年）	宗教
365	高橋文博『近世の心身論：徳川前期儒教の三つの型』（ぺりかん社、1990年）	人間
366	池見澄隆「日本人の仏教的病氣観：古代から近代までの一系譜」（『日本仏教学会年報』55、1990年）	病氣、宗教
367	下野敏見「鬼子殺しの伝承」（『鹿兒島民俗』92・93（合）、1990年）	伝承
368	向井承子『病いの戦後史：体験としての医療から』（筑摩書房、1990年）	病氣
369	小林丈広「京都における「公衆衛生」の行方：奠都千百年記念祭・内国勸業博覧会をめぐって」（『紀要』〈京都市歴史資料館〉7、1990年）	衛生
370	鈴木昭英「瞽女の宗教性」（『宗教民俗研究』1、1991年）	視覚障害、宗教
371	石井厚「仙台藩の乱心者に対する刑罰」（『障害児教育と構成能力ブロック検査 土佐林一教授退官記念論文集』、1991年）	責任能力、精神障害
372	栗原輝雄「障害と人生一明石海人研究から」（『三重大学教育学部研究紀要（教育科学）』42、1991年）	障害、人生
373	要田洋江「障害児の親となるとき」（上野千鶴子他編『家族の解体と再生 シリーズ変貌する家族5』岩波書店、1991年）	障害、家族
374	生瀬克己『障害者問題入門』（解放出版社、1991年）	障害
375	中野善達・加藤康昭『わが国特殊教育の成立』（東峰書房、1991年）	障害、教育
376	杉尾敏明・高橋美代子「児童文学「ピノキオ」と障害者差別」（『阪南論集 人文・自然科学編』16(2)、1991年）	障害、文学
377	小川英彦「戦前における「障害者福祉」関係文献目録：主な社会福祉関係雑誌の整理を通して」（『社会福祉学』32(1)、1991年）	障害、福祉、目録
378	脇田修『河原巻物の世界』（東京大学出版会、1991年）	賤民
379	横田則子「「物吉」考：近世京都の癩者について」（『日本史研究』352、1991年）	ハンセン病、身分
380	梅村佳代『日本近世民衆教育史研究』（梓書房、1991年）	教育
381	横山和彦他編『日本社会保障の歴史』（学文社、1991年）	社会保障
382	中村一基「童子神の変容：水蛭子から夷三郎殿へ」（『教育学部研究年報・岩手大』51(1)、1991年）	宗教
383	稲垣進一編・恵俊彦編『国芳の狂画』（東京書籍、1991年）	狂、美術
384	新村拓『老いと看取りの社会史』（法政大学出版局、1991年）	老い
385	柿本昭人『健康と病のエピステーメー：十九世紀コレラ流行と近代社会システム』（ミネルヴァ書房、1991年）	病氣
386	根岸謙之助『医療民俗学論』（雄山閣、1991年）	医療、民俗
387	藤野豊「改正「癩予防法」の成立と絶対的隔離への道」（『帝塚山論集』71、1991年）	ハンセン病
388	清水勝嘉『日本公衆衛生史 昭和戦前期』（不二出版、1991年）	衛生
389	稲葉光彦『日本社会福祉制度概説』（慶応通信、1991年）	福祉
390	藤本佳男「障害者差別の歴史的背景：普遍宗教としての仏教とのかかわりの中で」（『龍谷史壇』99・100、1992年）	障害、差別
391	加藤康昭「近世の障害者と身分制度」（朝尾直弘編『日本の近世 7 身分と格式』中央公論社、1992年）	障害、身分

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
392	千本英史「『かたは』考—身体障害の表現」（『奈良女子大学文学部研究年報』35、1992年）	身体障害
393	茂木俊彦・高橋智・平田勝政『わが国における「精神薄弱」概念の歴史的研究』（多賀出版、1992年）	知的障害
394	平田勝政「戦前の教育学分野における「精神薄弱」概念の歴史的研究 —教育学者の乙竹岩造と樋口長市の検討を中心に—」（『長崎大学教育学部教育科学研究報告』44、1992年）	知的障害
395	山田明「近代日本の無能力貧民問題と社会事業調査の展開 —「老人・障害者・医療保険」について—」（社会福祉調査研究会編『戦前日本社会事業調査資料集成 7』勁草書房、1992年）	障害、社会調査
396	河合康「新潟県盲教育史：明治・大正期における高田盲学校を中心として」（『研究紀要』〈上越教育大〉12(1)、1992年）	視覚障害
397	吉野由美子「わが国における肢体不自由児施設の歴史的展開（上） —緑成会整育園の歴史を中心に—」（『人文学報』（東京都立大学人文学部）233、1992年）	障害、施設
398	平田勝政「近代日本障害児教育史関係文献目録」（『長崎大学教育学部教育科学研究報告』43、1992年）	障害、教育、目録
399	旭川児童院『重症心身障害児者に関する文献目録』（旭川旭川児童院、1992年）	障害、目録
400	藤野豊「『毒婦物』文芸の社会的背景：高橋お伝とハンセン病」（『民衆史研究』44、1992年）	ハンセン病
401	原田伴彦他編『編年差別史資料集成 第10巻 近世部落編5』（三一書房、1992年）	差別
402	石崎昇子「生殖の自由と産児調節運動：平塚らいてうと山本宣治」（『歴史評論』503、1992年）	産育
403	星野貞一郎「仏教社会福祉の役割：前近代の仏教福祉から学ぶ」（『立正大学短期大学部紀要』32、1992年）	福祉、宗教
404	稲葉光彦『窮民救助制度の研究：帝国議會開設以前史』（慶応通信、1992年）	社会、救済
405	山本幸司『穢れと大祓』（平凡社、1992年）	穢れ、宗教
406	中野幡能編『盲僧』（歴史民俗学論集2）（名著出版、1993年）	視覚障害
407	小椋喜一郎「近世社会のなかの子ども・老人・障害者」（『新視点5 日本の歴史 近世編 江戸時代』新人物往来社、1993年）	障害、古い
408	鳥越隆士「離島の聾者の生活史：不就学者を中心に」（『国立身体障害者リハビリテーションセンター研究紀要』14、1993年）	聴覚障害、生活
409	平田勝政「戦前日本の教育実践分野における「精神薄弱」概念の歴史的研究」（『教育科学研究報告・長崎大・教育』45、1993年）	知的障害
410	高橋智「わが国における精神薄弱概念の歴史的研究Ⅶ —昭和戦前期の主要な著作、学説の検討を中心に—」（『研究紀要』（日本福祉大学）88、1993年）	知的障害
411	蒲生俊宏「戦前「精神薄弱施設」の対照研究 —個人委託における家族問題—」（『障害者問題史研究紀要』36、1993年）	知的障害、施設
412	船橋秀彦「障害児教育と体罰・人権」（『茨城近代史研究』8、1993年）	障害児教育、人権
413	森納『日本盲人史考：視力障害者の歴史と伝承：金属と片眼神』（米子今井書店、1993年）	視覚障害
414	阿佐博『道ひとすじ —昭和を生きた盲人たち—』（あずさ書店、1993年）	視覚障害
415	志村哲郎「障害者差別の歴史と課題」（『部落解放』352、1993年）	障害、差別
416	小野尚香「京都府立『癡狂院』の設立とその経緯」（『日本医学史雑誌』29(4)、1993年）	精神障害
417	生瀬克己『『障害』にこそされた人びと：昭和の新聞報道にみる障害の者（障害者）と家族』（千書房、1993年）	障害、家族
418	安藤房治「青森障害児教育史 —青森県盲啞学校の設立と戦前における展開—」（『弘前大学教育学部紀要』69、1993年）	障害、教育
419	伊藤寿彦「新教育論における障害者の「共学」論の誕生 —戦前日本における樋口長市の共学論の形成—」（『障害者問題史研究紀要』36、1993年）	障害、教育
420	山崎由可里「本庄陸男の障害観・障害児教育観の検討」（『社会教育研究年報』（名古屋大・教育・社会教育研究室）10、1993年）	障害認識、教育
421	平田勝政「戦前日本の「精神薄弱」関係資料目録-2- 社会事業関係雑誌を中心に」（『長崎大学教育学部教育科学研究報告』45、1993年）	知的障害、目録
422	宮城洋一郎『日本仏教救済事業史研究』（永田文昌堂、1993年）	宗教、救済
423	酒井シヅ編著『日本疾病史』（放送大学研究振興会、1993年）	病気

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
424	藤野豊「日本のファシズムと医学」（『会報・民衆史研究会』35～36、1993年）	医学、国家
425	藤野豊『日本ファシズムと医療：ハンセン病をめぐる実証的研究』（岩波書店、1993年）	ハンセン病、国家
426	高木雅史「戦前日本における優生思想の展開と能力観・教育観」（『名古屋大学教育学部紀要（教育学科）』40(1)、1993年）	優生
427	荒木治「大黒天にみる身体観について」（『紀要・青葉学園短期大学』18、1993年）	身体
428	浜近仁史「『取徳』と『構』 一丸亀藩の差別支配政策と民衆の差別意識一」（『部落解放』364、1993年）	賤民、差別
429	塚本学「江戸時代人の生命維持のための情報」（『歴史学研究』651、1993年）	命
430	松本修『全国アホバカ分布考』（太田出版、1993年）	語彙、民俗
431	中村薫「仏教とらい（ハンセン病）（上之下）特に仏教經典に出ずる癩について」（『同朋仏教』28、1993年）	宗教、ハンセン病
432	丸茂湛祥「ルイス・フロイス『日本史』における身体観について」（『宗教研究』66(4)、1993年）	身体
433	成田龍一「衛生意識の定着と『美のくさり』：1920年代、女性の身体をめぐる一局面」（『日本史研究』366、1993年）	衛生
434	山本俊一『日本らい史』（東京大学出版会、1993年）	ハンセン病
435	瀧澤利行『近代日本健康思想の成立』（大空社、1993年）	健康
436	一宮俊一・大橋孝雄「福祉教育の構想と展開」（『鳴門教育大学学校教育研究センター紀要』7、1993年）	教育
437	田宮仁他編『仏教と福祉』（溪水社、1993年）	宗教、福祉
438	小島博巳「廻国行者と天蓋六部：『日本九峰修行日記』の提起する2、3の問題について」（『宗教民俗研究』3、1993年）	宗教
439	昼田源四郎「日本古代と近世における狂気と犯罪：責任能力についての判断を中心に」（中谷陽二編『精神障害者の責任能力 法と精神医学の対話』金剛出版、1993年）	責任能力
440	村田熙『盲僧と民間信仰』（村田熙選集1）（第一書房、1994年）	視覚障害、宗教
441	広瀬浩二郎「日本文化史と中世盲僧（芸能史ノート）」（『芸能史研究』127、1994年）	視覚障害
442	伊秩秀紀「盲僧史料『雲海家文書』とその周辺」（『伝承文学研究』42、1994年）	視覚障害
443	須藤宏明「『耳囊』における〈盲人〉の研究」（『群系』7、1994年）	視覚障害
444	永井彰子「筑前・筑後の盲僧集団とその周辺」（塚田孝他編『身分的周縁』部落問題研究所（京都）、1994年）	視覚障害
445	富岡達夫『東京の知能遅滞児教育史序説 戦前編』（大揚社（刊行＝千葉）星雲社（発売）、1994年）	知的障害
446	藤本文朗他編『京都障害者歴史散歩』（文理閣、1994年）	障害
447	加藤康昭「日本の障害児教育成立史に関する研究―成立期の盲・聾啞者問題をめぐる教育と政策―」（『茨城大学教育学部紀要（教育科学）』43、1994年）	障害、教育
448	木村元「商神「福助」の心性史考 一障害児教育史への視点一」（中内敏夫他『叢書〈生む・育てる・教える―匿名の教育史〉4 企業社会と偏差値』藤原書店、1994年）	障害、教育
449	富永光昭他「新聞社説にみる戦後日本の障害者問題：朝日新聞社説の分析を中心として」（『障害児教育研究紀要』16、1994年）	障害、社会
450	平田勝政「障害者の人権思想の源流を求めて 一近代日本における障害者の人権思想の生成と展開一」（山住正己編『文化と教育をつなぐ』国土社、1994年）	障害、人権
451	高橋智「知的障害児（者）の人権擁護・保障問題に関する文献目録」（『日本福祉大学研究紀要』91(1)、1994年）	知的障害、目録
452	新村拓「前近代の生殖観」（脇田晴子他編『ジェンダーの日本史』上、東大出版会、1994年）	命
453	吉元昭治『養生外史 一不老長寿の思想とその周辺一（日本篇）』（医道の日本社、1994年）	養生
454	落合恵美子「近世末における間引きと出産：人間の生産をめぐる体制変動」（脇田晴子他編『ジェンダーの日本史』上、東大出版会、1994年）	命
455	斎藤洋一「近世の被差別民と医薬業」（『水と村の歴史』9、1994年）	賤民、生活
456	武田久義「五人組と生活保障についての一考察」（『経済経営論集』〈桃山学院大〉35(4)、1994年）	生活

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
457	脇田修「近世における職種差別の構造」（塚田孝他編『身分的周縁』部落問題研究所（京都）、1994年）	職業、差別
458	木下直之「見世物のなかの〈人のかたち〉」（東京国立文化財研究所『人の「かたち」人の「からだ」：東アジア美術の視座』平凡社、1994年）	身体、芸能
459	沢山美果子「産科養生論と近世民衆の「産」と「心性」（『女性史学』4、1994年）	命、養生
460	沢山美果子「近世農民家族における「子産み」と「産む」身体 一出産管理としての仙台藩の赤子養育仕法を手がかりに」（『日本史研究』383、1994年）	命、産育
461	沢山美果子「産科養生論と近世民衆の「産」の心性」（『女性史学』4、1994年）	命、養生
462	横田則子「近世都市社会と障害者：見世物をめぐって」（塚田孝他編『身分的周縁』部落問題研究所出版部、1994年）	芸能、社会
463	吉田久一「宮城洋一郎著『日本仏教救済事業史研究』（『日本歴史』559、1994年）	宗教、救済
464	フランソア・マセ「神道と生命観」（『論集・松山大学』6(4)、1994年）	宗教、生命
465	野本寛一『共生のフォークロア』（青土社、1994年）	共生、民俗
466	吉田久一『日本の社会福祉思想』（勁草書房、1994年）	福祉
467	室田保夫『キリスト教社会福祉思想史の研究：「一国の良心」に生きた人々』（不二出版、1994年）	社会福祉、宗教
468	布川弘「「貧民」の数：明治期における「貧民」認識の意味」（『日本史研究』388、1994年）	社会、貧民
469	三浦豊彦「労働と健康の歴史：日本の塵肺を中心として」（『科学史研究』189、1994年）	社会、労働
470	尾崎耕司「「伝染病予防法」考：市町村自治と機関委任事例に関する一考察」（『新しい歴史学のために』213、1994年）	病気
471	高橋智「日本の「近代化」と「精神薄弱」概念の成立」（大井清吉先生退官記念論文集刊行委員会編『障害児教育学の探究』田研出版、1995年）	知的障害
472	国立国会図書館逐次刊行物部『障害と差別』（大空社、1995年）	障害、差別
473	武智秀夫『義肢装具とリハビリテーションの思想』（「新樹会」創造出版、1995年）	障害、補助
474	日外アソシエーツ編『障害者福祉関係図書目録 80/94』（日外アソシエーツ伊國屋書店）、1995年）	障害、福祉、目録
475	中島陽一郎『病気日本史』（雄山閣、1995年）	病気
476	ローテルムンド、ハルトムート『瘡瘡神 一江戸時代の病いをめぐる民間信仰の研究一』（岩波書店、1995年）	瘡瘡神
477	藤本清二郎「近世城下町の徘徊者・胡乱者：18世紀前半の和歌山」（『地方史研究』257、1995年）	社会、徘徊胡乱
478	藤野豊「近代日本のキリスト教と優生思想」（『キリスト教史学』49、1995年）	優生、宗教
479	青木歳幸「天保年鑑善光寺医師記録について」（『市誌研究ながの』2、1995年）	医師
480	藤野豊「優生思想と民衆：池田林儀と優生思想」（『民衆史研究』49、1995年）	優生
481	福島真人編『身体構築学』（ひつじ書房、1995年）	身体
482	塚本学「江戸時代における動物の生命と人命」（『研究報告・歴博』61、1995年）	命
483	上原英正『福祉思想と宗教思想』（学文社、1995年）	福祉、宗教
484	奈倉道治「尾張藩・名古屋を中心とした江戸時代の医療の流れ」（『日本医史学雑誌』41(2)、1995年）	医療
485	西岡孝治「儒家の人間観：民衆観を中心に」（1～2）（『北海道教育大学紀要（第一部A）』45(2)、46(1)、1995年）	人間観、儒学
486	立川昭二「江戸 老いの文化（一）～（十二）」（『ちくま』286～297、1995年）	老い
487	青木歳幸「史料紹介・天保年間善光寺医師記録について」（『市誌研究ながの』2、1995年）	医師
488	北原糸子『都市と貧困の社会史』（吉川弘文館、1995年）	社会、貧困
489	山田明「日露戦争時の廃兵の生活困窮と援護計画 一廃兵院設立と内務省廃兵調査の地方展開を中心にして」（『日本福祉教育専門学校研究紀要』4(2)、1995年）	廃兵、困窮
490	今西一「文明開化と〈牛首乞食〉」（西川長夫他編『幕末・維新期の国民国家形成と文化変容』新曜社、1995年）	賤民
491	岩下哲典「幕末風刺画における政治情報と民衆：歌川国芳「きたいな名医難病療治」にみる民衆の為政者像」（大石慎三郎他『近世日本の文化と社会』雄山閣、1995年）	社会、病気

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
492	樋口政則『不思議の村の子どもたち：江戸時代の間引きや捨子と社会』1、2（名著出版、1995年）	命、捨子
493	ポール・シャロウ「女性の「男色」論」（『文学』29(1)、1995年）	性
494	倉地克直「性の文化」（『岩波講座 日本通史 14』岩波書店、1995年）	性
495	松村浩二「養生のまなざし：近世前期養生書と『養生訓』（『甲南国文』42、1995年）	養生
496	南和男「川鍋狂斎画『狂斎百狂どふけ百萬編』について」（『日本歴史』571、1995年）	狂、美術
497	鹿野政直責任編集『桃太郎さがし：健康観の近代』（朝日新聞社、1995年）	健康
498	跡部信・岩崎奈緒子・吉岡真二「近世京都岩倉における『家庭看護』（『精神医学』27、1995年）	看護
499	坂上孝「公衆衛生の誕生：「大日本私立衛生会」の成立と展開」（『経済論叢』〈京大〉156(4)、1995年）	衛生
500	赤松啓介『差別の民俗学』（明石書店、1995年）	差別、民俗
501	生瀬克己『近世障害者関係史料集成』（明石書店、1996年）	障害
502	谷合侑『盲人の歴史』（明石書店、1996年）	視覚障害
503	広瀬浩二郎「盲僧のイメージ」（『歴史評論』550、1996年）	視覚障害
504	西岡陽子「近世日向の盲僧 一盲僧寺院の文書から」（『芸能史研究』135、1996年）	視覚障害
505	平田勝政「明治期における「精神薄弱」関係用語・概念の研究 一「低能児」概念を中心に一」（『日本教育史研究』15、1996年）	知的障害、語彙
506	北野与一『日本心身障害者体育史』（不昧堂出版、1996年）	障害、体育
507	藤野豊「日本のファシズムと病者・障害者 一断種と虐殺一」（『戦争責任研究』（日本の戦争責任資料センター）12、1996年）	障害、国家
508	八木剛平他「精神病の治療史：疾病観と治療法」（『精神神経学雑誌』98(9)、1996年）	精神障害
509	小林幸夫「笑話と座頭」（『東海学園国語国文』49、1996年）	視覚障害、文化
510	鈴木昭英『瞽女 信仰と芸能』（高志書店、1996年）	視覚障害、宗教
511	足立洋一郎「東海訓盲院の設立と初期盲教育をめぐる状況」（『静岡近代史研究』22、1996年）	視覚障害、教育
512	加藤康昭「障害者教育史研究の視点」（『障害者問題史研究紀要』37、1996年）	障害、教育
513	平田勝政・菅達也『長崎県障害児教育史資料目録一戦前・盲聾教育編一』（『長崎大学教育学部教育科学研究報告』51、1996年）	障害、教育、目録
514	末柄豊『「盲聾記」記主考』（『日本歴史』582、1996年）	医師
515	新村拓『出産と生殖観の歴史』（法政大学出版局、1996年）	命
516	藤原良章「穢忌避観念の発達と身分制」（『情況』1996-5 別冊、1996年）	差別、身分
517	立川昭二「江戸 老いの文化（十三）～（十五最終）」（『ちくま』298～300、1996年）	老い
518	神居文彰「病いの備荒 一転重軽受について一」（『印度学仏教学研究』45(1)、1996年）	病気
519	横関至「書評・室田保夫『キリスト教社会福祉思想史の研究 一「一国の良心」に生きた人々一』（『大原社会問題研究所雑誌』449、1996年）	福祉思想、宗教
520	中西直樹「教育勅語成立直前の徳育論争と仏教徒「貧児教育」（『龍谷史壇』105、1996年）	教育、貧民
521	藤野豊編『歴史のなかの「癩者」』（ゆみる出版、1996年）	ハンセン病
522	鈴木則子「近世癩病観の形成と展開」（藤野豊編『歴史のなかの「癩者」』ゆるみ出版、1996年）	ハンセン病
523	藤野豊「隔絶のなかのハンセン病患者」（藤野豊編『歴史のなかの「癩者」』ゆるみ出版、1996年）	ハンセン病
524	藤野豊「戦後民主主義」のなかのハンセン病患者」（藤野豊編『歴史のなかの「癩者」』ゆるみ出版、1996年）	ハンセン病
525	後藤悦子「法的差別の撤廃に向けて」（藤野豊編『歴史のなかの「癩者」』ゆるみ出版、1996年）	ハンセン病
526	大谷藤郎『らい予防法廃止の歴史』（勁草書房、1996年）	ハンセン病
527	渡邊昭五「堤邦彦『近世仏教説話の研究』（『國學院雑誌』97(8)、1996年）	宗教、説話
528	立川昭二『江戸老いの文化』（筑摩書房、1996年）	老い
529	浅見隆「近世民衆の老人観」（『歴博』77、1996年）	老い

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
530	菊池慶子「病氣療養と武家社会：沼津藩『水野伊織日記』の分析から」（『聖和学園短期大学紀要』33、1996年）	病氣
531	柳谷慶子「近世武家社会の「看病断」について」（『日本歴史』573、1996年）	看護
532	筑後則「幕末期における疾病観と民衆：安政五年コロリ流行を中心に」（『法政史論』23、1996年）	病氣
533	阿部安成「健康、衛生、あるいは病という歴史認識」（『一橋論叢』116(2)、1996年）	病氣、衛生
534	阿部安成「病へのフォークロアと秩序」（岩田浩太郎編『新しい近世史5 民衆世界と正統』新人物往来社、1996年）	病氣、民俗
535	宮田登『ケガレの民俗誌』（人文書院、1996年）	穢れ、民俗
536	福田安典「医案（江戸の診察カルテ）と出版」（『江戸文学』16、1996年）	病氣、出版
537	樋口陽一『一語の辞典 人権』（三省堂、1996年）	人権
538	加藤伸勝『地域精神医療の曙』（金芳堂、1996年）	精神医療
539	加藤博史『福祉的人間観の社会誌』（晃洋書房、1996年）	福祉、人間観
540	藤目ゆき『性の歴史学』（不二出版、1996年）	性
541	煙山信夫「或る武士の治療記録 八戸市史より」（『八戸地域史』28、1996年）	病氣
542	高橋正雄・原谷宏「介護者としての南方熊楠」（『日本病跡学雑誌』51、1996年）	介護
543	武藤禎夫編『江戸小話類語事典』（東京堂出版、1996年）	文学、語彙
544	関敬吾『昔話と笑話』（岩崎美術社、1996年）	文化
545	広瀬浩二郎「シャーマニズム文化の中の盲人」（大山喬平教授退官記念会編『日本社会の史的構造 古代中世』思文閣出版、1997年）	視覚障害、呪術
546	永井彰子「盲僧琵琶の語り」（『口承文学1』（岩波講座 日本文学史16）岩波書店、1997年）	視覚障害、芸能
547	木京睦人「山口県近代の「盲僧」の存続について」（『山口県地方史研究』78、1997年）	視覚障害
548	船橋秀彦「茨城県における戦前の障害児教育」（『茨城県史研究』79、1997年）	障害、教育
549	岡本稲丸『近代盲聾教育の成立と発展：古河太四郎の生涯から』（日本放送出版協会、1997年）	障害、教育
550	広瀬浩二郎『障害者の宗教民俗学』（明石書店、1997年）	障害、宗教
551	鈴木昭英『瞽女 信仰と芸能』（高志書店、1997年）	視覚障害、芸能
552	荒木博之他『地神盲僧資料集』（三弥井書店、1997年）	視覚障害、宗教
553	西岡陽子「地神盲僧」（赤田光男他編『神と靈魂の民俗』（講座日本の民俗学7）雄山閣、1997年）	視覚障害
554	神田より子「ゴゼ・イタコ・ミコ」（赤田光男他編『神と靈魂の民俗』（講座日本の民俗学7）雄山閣、1997年）	視覚障害
555	岡本稲丸『近代盲聾教育の成立と発展 一古河太四郎の生涯から』（日本放送出版協会、1997年）	障害、教育
556	北野与一『障害教育・福祉の源流』（不昧堂出版、1997年）	障害、教育
557	生瀬克己「障害者の自立と生活保障」（山本博文編『別冊歴史読本 江戸の危機管理』新人物往来社、1997年）	障害、生活
558	高橋智「戦前の城戸幡太郎学派の生活教育論と「精神薄弱」概念：「精神薄弱」概念の理論史研究」（『教育学研究』64(2)、1997年）	知的障害、生活教育
559	渡辺勤持「入所施設から地域へ：知的障害者の入所施設設立が20世紀前半と後半の国との比較」（『社会福祉学』38(2)、1997年）	知的障害、施設
560	花田春兆『日本の障害者：その文化史的側面』（中央法規、1997年）	障害、文化
561	杉野昭博「「障害の文化」と「共生」の課題」（『異文化の共存』（岩波講座 文化人類学8）岩波書店、1997年）	障害、文化
562	田口貴弘・清水寛「『傾城反魂香』の「吃又」にみる障害者観」（『障害者問題史研究紀要』38、1997年）	障害認識
563	茂木俊彦編集代表『障害児教育大事典』（旬報社、1997年）	障害、教育
564	平田勝政「近代日本における「特殊教育」概念の形成」（『障害者問題研究』24(4)、1997年）	知的障害、教育

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
565	平田勝政「近代日本障害児教育史関係文献目録（Ⅱ）」（『長崎大学教育学部教育科学研究報告』53、1997年）	障害、教育、目録
566	平田勝政「樋口長市文献目録」（『長崎大学教育学部教育科学研究報告』52、1997年）	障害、教育、目録
567	嶋崎理佐子「知的障害者の親の会運動の歴史的考察」（『立教大学大学院社会学研究科論集』4、1997年）	知的障害、運動
568	障害理解研究会「障害理解関係文献一覧（1990年～1997年）」（2）（『障害理解研究』2、1997年）	障害、目録
569	宮田登「日本人の老人観 一姥棄て、八百比丘尼伝説一」（『歴史評論』565、1997年）	古い、民俗
570	池見澄隆「日本人の病気観と仏教：古代から近代までの一系譜」（同『増補改訂版 中世の精神世界 死と救済』人文書院、1997年）	病気、宗教
571	太田素子編『近世日本マビキ慣行史料集成』（刀水書房、1997年）	命
572	太田素子「近世前期東北農民の性愛と家族関係 一「求子」と避妊の社会史一」（『比較家族史研究』11、1997年）	性、命
573	百瀬孝『日本福祉制度史』（ミネルヴァ書房、1997年）	福祉
574	山田明「わが国傷痍軍人問題と職業保護の歴史」（『戦前社会事業基本文献選集58 傷痍軍人労務輔導』日本図書センター、1997年）	傷痍軍人、職業
575	山本俊一『増補 日本らい史』（東京大学出版会、1997年）	ハンセン病
576	百瀬孝『日本老人福祉史』（中央法規出版、1997年）	古い
577	竹内信夫「鯖江藩医官西嶋俊庵の医学と蔵書」（『北陸史学』46、1997年）	医学
578	藤本清二郎『近世賤民制と地域社会：和泉国の歴史像』（清文堂出版、1997年）	賤民
579	松本純子「近世の子供と老人の扶養：奥州守山藩領の事例から」（『歴史』88、1997年）	扶養
580	桜井由幾「近世農民家族における老人の地位：隠居慣行と女性」（『歴史評論』565、1997年）	古い、女性
581	安保則夫「都市衛生システムの構築と社会的差別」（『歴史学研究』703、1997年）	衛生、差別
582	松原洋子「〈文化国家〉の優生法 一優生保護法と国民優生法の断層一」（『現代思想』25(4)、1997年）	優生
583	松原洋子「民族優生保護法案と日本の優生学の系譜」（『科学史研究』201、1997年）	優生
584	橋本明「わが国の優生学・優生思想の広がり」と精神医学者の役割 一国民優生法の成立に関連して一」（『山口県立大学看護学部紀要』1、1997年）	優生、精神医学
585	礪川全次編『穢れと差別の民俗学』（批評社、1997年）	穢れ、差別
586	吉田伸之「『珍禽獣』の見世物と異類観」（村井章介他編『境界の日本史』東京大学出版会、1997年）	異類
587	多田元「物言わぬ子」（大林太良ほか監『日本神話辞典』大和書房、1997年）	民俗
588	櫻村賢二「『愚か村』とされた村」（『歴史民俗資料学研究』2、1997年）	愚か村
589	谷合侑『盲人福祉事業の歴史』（明石書店、1998年）	視覚障害、福祉
590	大隅三好、生瀬克己校訂『盲人の生活』（雄山閣出版、1998年）	視覚障害、生活
591	伊藤政雄『歴史の中のろうあ者』（近代出版、1998年）	障害
592	小川英彦「愛知県における知的障害問題の成立に関する研究」（『社会事業史研究』26、1998年）	知的障害
593	小林丈広「近代的精神医療の形成と展開：岩倉の地域医療をめぐる」（『研究紀要』〈世界人権問題研究センター〉3、1998年）	精神障害
594	小俣和一郎「ナチ「安楽死」と日本の精神医療：歴史学上の問題点」（『人文学報』（歴史学）〈都立大〉26、1998年）	精神障害
595	松下昌代「大正・昭和期における精神病者の処遇と法制度」（『ばさら・名大』1、1998年）	精神障害
596	小俣和一郎『精神病院の起源』（太田出版、1998年）	精神障害
597	谷合侑「狂言にみる視覚障害者」（『ノーマライゼーション』18(7)、1998年）	視覚障害、芸能
598	板原和子・桑原治雄「江戸時代後期における精神障害者の処遇」（1）（『社会問題研究・大阪府立大学社会福祉学部』48(1)、1998年）	精神障害、責任能力
599	板原和子・桑原治雄「江戸時代後期における精神障害者の処遇」（2）（『社会問題研究・大阪府立大学社会福祉学部』49(1)、1999年）	精神障害、責任能力

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
600	板原和子・桑原治雄「江戸時代後期における精神障害者の処遇」（3～4）（『社会問題研究・大阪府立大学社会福祉学部』49(2)、50(1)、2000年）	精神障害、責任能力
601	板原和子・桑原治雄「江戸時代後期における精神障害者の処遇」（5）（『社会問題研究・大阪府立大学社会福祉学部』50(2)、2001年）	精神障害、責任能力
602	垂水希実枝他「日本における障害者に対する不妊手術の歴史的考察：国民優生保護法、母体保護法まで」（『論集・四国学院大』97、1998年）	障害、命
603	小川英彦「障害児の保護と教育の起こりに関する研究」（『岡崎女子短期大学研究紀要』31、1998年）	障害、教育
604	高橋智・清水寛『城戸幡太郎と日本の障害者教育科学 ―障害児教育における「近代化」と「現代化」の歴史的位相―』（多賀出版、1998年）	障害、教育
605	藤野豊『日本ファシズムと優生思想』（かもがわ出版、1998年）	国家、優生
606	沢山美果子『出産と身体の近世』（勁草書房、1998年）	命
607	杉下元明「近世文学と或る病について：儒者松崎慊堂の日暦を中心として」1998（『太平詩文』11、1998年）	病気、文学
608	水澤謙一『えちご艶笑譚』（高志書店、1998年）	笑い
609	浜口一夫『佐渡艶笑譚』（高志書店、1998年）	笑い
610	ハワード・ヒベット他編『笑いと創造 第一集』（勉誠出版、1998年）	笑い
611	相山聖子他「藤野豊編「歴史のなかの「癪者」」（『民衆史研究』55、1998年）	ハンセン病
612	富永茂樹「精神療法の考古学」（精神医学史研究1、1998年）	精神医療
613	小椋力「沖縄における歴史・文化と精神医学・医療」（琉球大学医学部附属地域医療研究センター編『沖縄の歴史と医療史』九州大学出版会、1998年）	精神医療
614	犀川一夫「沖縄のハンセン病対策」（琉球大学医学部附属地域医療研究センター編『沖縄の歴史と医療史』九州大学出版会、1998年）	ハンセン病
615	木村哲也「大江満雄とハンセン病患者：交流の軌跡」（『歴史民俗資料学研究』3、1998年）	ハンセン病
616	新村拓『医療化社会の文化史』（法政大学出版局、1998年）	医療、社会
617	柳谷慶子「近世社会の高齢者扶養と家族・地域」（『歴博』91、1998年）	老い、扶養
618	五島敏芳「近世後期の狐憑きと百姓：信州佐久郡五郎兵衛新田村の一事例の紹介から」（『水と村の歴史』13、1998年）	憑物
619	橋本政宣「憑霊信仰と吉田神道の祈祷」（『朱』41、1998年）	憑物
620	網野善彦・宮田登『歴史のなかで語られてこなかったこと』（洋泉社、1998年）	民俗
621	小松和彦「民俗社会の感性と生理」（小松和彦他編『身体と心性の民俗』（講座日本の民俗学2）雄山閣、1998年）	民俗
622	梅屋潔「「妖怪」と「異人」」（小松和彦他編『身体と心性の民俗』（講座日本の民俗学2）雄山閣、1998年）	妖怪、異人
623	森栗茂一「民俗社会と差別」（小松和彦他編『身体と心性の民俗』（講座日本の民俗学2）雄山閣、1998年）	民俗、差別
624	山下隆章「高松藩における「乞喰」の諸芸興行について」（『鳴門史学』11、1998年）	勧進、芸能
625	宋連玉「藤目ゆき『性の歴史学』」（『歴史学研究』708、1998年）	性
626	石崎昇子他「藤目ゆき『性の歴史学』」（『歴史評論』576、1998年）	性
627	小田晋『日本の狂気誌』（講談社学術文庫）（講談社、1998年）	狂気
628	新保哲『日本人の生命観』（北樹出版、1998年）	命
629	山下隆章「高松藩における「乞喰」の諸芸能について」（『鳴門史学』11、1998年）	賤民、芸能
630	ひろたまさき『差別の視線：近代日本の意識構造』（吉川弘文館、1998年）	差別
631	花田春兆「歴史は創られる」（石川准・長瀬修編『障害学への招待』明石書店、1999年）	障害
632	生瀬克己『日本の障害者の歴史 近世篇』（明石書店、1999年）	障害
633	桑原治雄・板原和子「江戸後期の精神障害者を疑われる人たちへの処遇について」（『精神医学史研究』2、1999年）	精神障害

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
634	広瀬浩二郎「盲僧研究の意義と可能性－視覚障害者の立場から」（『巫覡・盲僧の伝承世界』1、1999年）	視覚障害
635	高松敬吉「盲僧 日南地域の神仏分離期の動向」（『人文学科論集』〈鹿児島大・法文〉49、1999年）	視覚障害
636	杉野昭博『盲人保護法案』に関する帝国議会資料（1904～1914）－視覚障害者によるあんま専業運動－（調査と資料91）（関西大学経済・政治研究所、1999年）	視覚障害、生活
637	田中俊雄「障害者福祉と「障害観」「障害者観」の研究」（『大垣女史短期大学研究紀要』40、1999年）	障害認識、福祉
638	河田道敏「古代日本人の障害者観についての一考察」（『岐阜大学教育学部障害児教育実践センター年報』6、1999年）	障害認識
639	昼田源四郎「江戸時代漢方医の精神病観」（『精神医学史研究』2、1999年）	精神障害
640	杉野昭博「障害者運動の組織とネットワーク－日本における障害当事者運動の歴史と展望－」（『研究双書』〈関西大学経済・政治研究所〉112、1999年）	障害、運動
641	林智樹「高齢障害者関連文献一覧」（『障害者問題研究』27(3)、1999年）	老い、目録
642	藤野豊「解説」（『優生運動』全9巻・別冊1、1999年）	優生
643	上田正昭編『人権歴史年表』（山川出版社、1999年）	人権
644	追塩千尋『日本中世の説話と仏教』（和泉書院、1999年）	仏教、説話
645	池上良正『民間巫者信仰の研究』（未来社、1999年）	呪術
646	酒井シヅ「人体観の歴史：人は「からだ」をどうみてきたか」（『日本医史学雑誌』45(2)、1999年）	身体
647	川村純一『病いの克服：日本痘瘡史』（思文閣出版、1999年）	天然痘
648	阿部安成「性、身体、ジェンダーという歴史認識」（『人民の歴史学』139、1999年）	性、身体
649	丹尾安典「男色の花」（『早稲田大学大学院文学研究科紀要』（第3分冊）44、1999年）	性
650	大久保治男「徳川幕府刑法における責任論」（一）～（二）（『苫小牧駒沢大学紀要』1～2、1999年）	責任能力
651	菅野則子「老いと病」（菅野則子『江戸時代の孝行者－「孝義録」の世界－』吉川弘文館、1999年）	老い、病気
652	塚本学「環境と生命の歴史試論」（『信濃』51(4)、1999年）	命
653	松下正明総編集『臨床精神医学講座S1：精神医療の歴史』（中山書店、1999年）	精神医学
654	田中俊雄「障害者福祉と「障害観」「障害者観」の研究」（2）（『大垣女史短期大学研究紀要』41、2000年）	障害認識、福祉
655	玉村公二彦「戦前京都市における「特別学級」の成立・展開とその実態」（『紀要・奈良教育大・人文社会』49(1)、2000年）	障害、教育
656	畠中暁子「『廓清』における優生思想の影響と論議の展開：リプロダクティブライツと障害者の生きる権利の狭間を考える端緒として」（『キリスト教社会問題研究』〈同志社大〉49、2000年）	障害、優生
657	上田敏他「鼎談 障害観・障害者観の転換とリハビリテーション」（『障害者問題研究』27(4)、2000年）	障害認識
658	渡辺徹「「仙台四郎」にみる障害者観」（『宮城教育大学紀要』35、2000年）	障害認識
659	寺本晃久「「知的障害」概念の変遷」（『現代社会理論研究』10、2000年）	知的障害
660	昼田源四郎「江戸時代における精神医学病因論」（『精神医学史研究』3、2000年）	精神医学
661	吉松誠「精神障害者処遇の歴史」（『高松市民病院雑誌』1、2000年）	精神障害
662	松尾智『歴史と文化に見る身体障害者』（明石書店、2000年）	身体障害
663	伊藤芳枝「盲僧と民間信仰」（『山陰民俗研究』5、2000年）	視覚障害
664	高見寛孝「盲僧とシャーマン－シャーマニズムの盲僧研究序説－」（櫻井徳太郎編『シャーマニズムとその周辺』第一書房、2000年）	視覚障害、呪術
665	小埜寺直樹「重症心身障害児施設療育の制度化過程－対象としての『重症心身障害児』規定をめぐって－」（『社会福祉学』41(1)、2000年）	心身障害、施設
666	倉本智明・長瀬修編『障害学を語る』（エンパワメント研究所、2000年）	障害
667	平田勝政「城戸幡太郎文献目録（戦前編）」（『長崎大学教育学部紀要－教育科学－』59、2000年）	障害、目録
668	松村寛之「『国防』の優生学：古屋芳雄を中心に」（『史林』83(2)、2000年）	優生

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
669	桜井由幾「近世の妊娠出産言説」（『歴史評論』600、2000年）	命
670	浅野富美江「優生保護法から母体保護法へ」（『歴史評論』600、2000年）	優生
671	松村寛之「『国防』の優生学 古屋芳雄を中心に」（『史林』83(2)、2000年）	優生
672	新村拓「歴史における老いと痴呆と介護」（『歴史評論』608、2000年）	老い、介護
673	新村拓「社会・生活の中で 歴史にみる痴呆老人」（『作業療法ジャーナル』34(5)、2000年）	老い
674	小椋喜一郎「日本近世における「老い」の諸相」（『歴史評論』608、2000年）	老い
675	野口実「日本史に見る老人像：「たくましい老人」の再生のために」（染谷淑子編『老いと家族 変貌する高齢者と家族』ミネルヴァ書房、2000年）	老い
676	土室修「ある高齢障害者の生活史」（『日本赤十字秋田短期大学紀要』4、2000年）	老い、生活
677	海原亮「近世後期在村における病と医療：近江国小脇郷今宿家の事例から」（『史学雑誌』109(7)、2000年）	医療
678	酒井シヅ「東西の身体観の比較〈上〉：『解体新書』に現れた東西の違い」（『言語』29(10)、2000年）	身体
679	酒井シヅ「東西の身体観の比較〈中〉：頭で考えるか腹で考えるか」（『言語』29(11)、2000年）	身体
680	酒井シヅ「東西の身体観の比較〈下〉：腎臓と腎 泌尿器か生殖器か」（『言語』29(12)、2000年）	身体
681	廣政直彦「近世日本の医学にみる身体観」（『文明』83、2000年）	身体
682	柏浦勝良「近世被差別民の寺社参詣—『鈴木家文書』の検討をととして」（『日本歴史』626、2000年）	差別、宗教
683	脇田修「日本近世における差別と忌避」（脇田晴子他編『アイデンティティ・周縁・媒介』吉川弘文館、2000年）	差別
684	小松和彦編『憑きもの』（怪異の民俗学1）（河出書房新社、2000年）	憑物
685	沢山美果子「近世後期捨子の実態」（『研究紀要・順正短大』28、2000年）	捨子
686	昼田源四郎「精神医学的病因論の成立と展開 江戸時代における精神医学病因論」（『精神医学史研究』3、2000年）	精神医学
687	青山陽子「精神病者の家族の役割 —「精神病者監護法」における管理システム—」（『解放社会学研究』14、2000年）	精神疾患、家族
688	庄司拓也「天保の飢饉下の秋田感恩講による孤児救済：近世の災害と民間救済活動」（『専修史学』31、2000年）	孤児、命
689	松村寛之「藤野豊著『日本ファシズムと優生思想』」（『民衆史研究』59、2000年）	国家、優生
690	川添裕『江戸の見世物』（岩波書店、2000年）	芸能
691	藤野豊『強制された健康：日本ファシズム下の生命と身体』（吉川弘文館、2000年）	国家、健康
692	山本起世子「家族における身体管理に関する歴史社会学的考察」（『論文集・園田学園女子大』35(1)、2000年）	家族、身体
693	米本昌平他『優生学と人間社会』（講談社、2000年）	優生
694	山田明「西南の役における傷病除役者の検討」（『青葉学園短期大学紀要』25、2000年）	傷病除役
695	井上弘「傷痍軍人の戦後：国立療養所箱根病院西病棟の傷痍軍人」（『小田原地方史研究』21、2000年）	傷痍軍人
696	松原洋子「優生学の歴史と現在」（『遺伝』（遺伝学普及会）54(10)、2000年）	優生
697	原田信一『近世障害者生活史の研究』（みづほ出版部、2001年）	障害、生活
698	板原和子・桑原治雄「江戸時代後期の精神障害者の処遇と非人制度」（『精神医学史研究』5(1)、2001年）	精神障害
699	朝尾直弘「生駒家と座頭・替女仲間」（『京都橘女子大学研究紀要』28、2001年）	視覚障害
700	山田雄司「加茂別雷神社と盲人」（『三重大史学』1、2001年）	視覚障害
701	鈴木英鷹他「江戸時代における精神障害の薬物療法」（『精神神経学雑誌』103(11)、2001年）	精神障害
702	赤倉貴子「明治33年「精神病者看護法」の成立」（『六甲台論集』（法学政治学）〈神戸大〉47(3)、2001年）	精神障害
703	大谷藤郎「ハンセン病の歴史と精神障害者問題：障害者差別の本質的課題」（『精神科看護』28(11)、2001年）	精神障害

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
704	篠田達明「江戸時代奥女中の精神障害」（『整形・災害外科』（金原出版）44(10)、2001年）	精神障害
705	本山幸一「近世越後にみる盲人の存在形態」（『越佐研究』58、2001年）	視覚障害
706	ジェラルド・グロマー「甲斐国の瞽女」（『紀要』〈山梨大・教育人間科学〉3(1)、2001年）	視覚障害
707	小野隆「文学にみる障害者像：落語「一眼国」にみる障害者観」（『ノーマライゼーション』21(7)、2001年）	障害認識
708	岡田靖雄「弘前藩『御国日記』にみる癡狂について」（『日本医史学雑誌』47(3)、2001年）	精神障害
709	桑原治雄・板原和子「江戸時代後期の精神障害者の処遇について（5） 当時の医師層の精神障害の認識について」（『精神医学史研究』5(1)、2001年）	精神障害
710	中谷陽二「精神病患者監護法はなぜ制定されたか」（『精神医学史研究』5(1)、2001年）	精神障害
711	綾部優子「1870年代東京府病院精神病室の存在について：精神障害者の実態から」（『精神医学史研究』5(1)、2001年）	精神障害
712	寺本晃久「低能概念の発生と「低能児」施設 ―明治・大正期における―」（『年報社会学論集』14、2001年）	知的障害
713	岡田喜篤「重症心身障害児の歴史」（『小児看護』24(9)、2001年）	心身障害
714	半田櫻子・アン・ウォルソール『手弱女のかひなき身：松尾多勢子と明治維新』（『総合女性史研究』18、2001年）	身体障害
715	杉本章『障害者はどう』生きてきたか ―戦前戦後障害者運動史―（関西障害者定期刊行物協会、2001年）	障害、運動
716	楠敏雄「私の障害者解放運動史」（全国自立生活センター協議会編『自立生活運動と障害文化』現代書館、2001年）	障害、運動
717	菊池勇夫「近世飢饉下の捨子・子殺し：東北地方を事例に」（『研究年報』（宮城女子大・キリスト教文化研）34、2001年）	捨子、子殺し
718	石出猛史「江戸の病と信仰」（『千葉医学雑誌』77(1)、2001年）	病気、宗教
719	高橋正雄「杉田玄白の老年観 ―『耄耋独語』と『蘭学事始』―」（『日本病跡学雑誌』62、2001年）	老い
720	関沢まゆみ「民俗学の老人論 ―宮田登の継承と発展―」（筑波大学民俗学研究室編『心意と信仰の民俗』吉川弘文館、2001年）	老い
721	倉石あつ子『子どもと老人の民俗誌』（岩田書院、2001年）	老い、子ども
722	菅野則子「「老」を捉える女と男の意識差」（桜井由幾他編『ジェンダーで読み解く江戸時代』三省堂、2001年）	老い
723	門脇真枝『狐憑病新論（復刻版）』（創造出版、2001年）	憑物
724	松本純子「行き倒れと他所者の看病・埋葬 奥州郡山における行き倒れ人の実態」（『紀要』（東北大・東北文化研）42、2001年）	行倒れ
725	宇佐美ミサ子「近世における「売春」の問題」（『総合女性史研究』18、2001年）	性
726	山田慶児他編『歴史の中の病と医学』（思文閣出版、2001年）	医学
727	大島晃一「陸奥国一関藩医建部清庵塾の診療記」（『研究報告』〈一関市博〉4、2001年）	医学
728	鹿野政直『健康観にみる近代』（朝日新聞社、2001年）	健康
729	藤野豊『「いのち」の近代史』（かもがわ出版（京都）、2001年）	命
730	斉藤美穂「女性雑誌にみる優生思想の普及について：国民優生法成立にいたるまで」（近代女性文化史研究会編『戦争と女性雑誌 1931-1945年』ドメス出版、2001年）	優生
731	沢山美果子「近世民衆の性と生殖をめぐる民俗：「懐胎縣様」と「女人はらみ月を知る事」（『岡山地方史研究』95、2001年）	命、民俗
732	松田義信『病と信仰・伝説』（東洋出版、2001年）	病気、民俗
733	塚本学『生きることの近世史：人命環境の歴史から』（平凡社、2001年）	命
734	小堀光夫、花部英雄編集『いまに語りつぐ日本民話集 第1集』（作品社、リブリオ出版、2001年）	民話
735	菊池真一編『講談資料集成』全三巻（和泉書院、2001年）	芸能

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
736	沢山美果子「天保飢饉下の捨子：津山藩領内における」（『順正短期大学研究紀要』30、2001年）	捨子
737	氏家幹人『江戸人の古い』（PHP 研究所、2001年）	古い
738	沖浦和光・徳永進『ハンセン病：排除・差別・隔離の歴史』（岩波書店、2001年）	ハンセン病
739	永井彰子『日韓盲僧の社会史』（葦書房、2002年）	視覚障害
740	松本千尋・鈴木英鷹「本邦における精神障害者に対する処遇・治療の歴史」（『大阪体育大学短期大学部研究紀要』3、2002年）	精神障害
741	岡田靖雄『日本精神科医療史』（医学書院、2002年）	精神医療
742	八木剛平、田辺英『日本精神病治療史』（金原出版、2002年）	精神障害
743	新村拓『痴呆老人の歴史』（法政大学出版局、2002年）	古い、精神障害
744	「友愛通信」刊行委員会編『障害者運動資料集成 友愛通信（復刻版）』（全15巻）（柏書房、2002年）	障害、運動
745	花田春兆『日本文学のなかの障害者像：近・現代編』（明石書店、2002年）	障害、文学
746	鈴木英鷹他「七山浄見寺爽神堂及び七山病院の歴史」（『精神医学史研究』6（1）、2002年）	精神医療
747	百瀬孝『「社会福祉」の成立：解釈の変遷と定着過程』（ミネルヴァ書房、2002年）	福祉
748	会田秀介『医と石仏・庶民の治病信仰』（青娥書房、2002年）	病気、宗教
749	大島建彦『疫病と信仰』（『説話・伝承学』10、2002年）	病気、宗教
750	石塚久郎・鈴木晃仁編『身体医文化論 一感覚と欲望一』（慶応義塾大学出版会、2002年）	医学、文化
751	ことわざ研究会『ことわざ資料叢書』（クレス出版、2002年）	俚諺
752	山本起世子「近代日本における優生政策と家族制度に関する歴史社会学的考察」（『論文集・園田学園女子大』37、2002年）	優生
753	吉田伸之「乞食・勧進と芸能者の所有について」（『部落問題研究』159、2002年）	勧進、芸能
754	西海賢二「物貰い考：村に入り来る宗教的職能者」（『立正史学』91、2002年）	宗教、生活
755	井上隆明「近世後期福岡藩の捨子：町方を中心に」（『大学院論集』〈福岡大〉34（1）、2002年）	捨子
756	近藤直也「「鬼子」の文化史（前）」（『山陰民俗研究』7、2002年）	民俗、鬼子
757	山内由紀「近世後期熊本町における窮民救済：「西古町懸か窮民御救恤根帳」の分析を中心に」（『熊本史学』80・81、2002年）	貧民、救済
758	松本純子「近世社会の高齢者比率と「荒廃」下の老人・子供」（『紀要』〈東北学院大・東北文化研〉43、2002年）	子ども、古い
759	金津日出美「18世紀日本の身体図にみる男と女」（『歴史学研究』764、2002年）	身体、性
760	峯岸賢太郎「穢れ観念と部落差別：その不可分性と穢れ観念の位置」（上）（下）（『部落問題研究』161～162、2002年）	賤民、差別
761	遠藤和夫「ハンセン病と仏教」（『部落解放史ふくおか』106、2002年）	ハンセン病、宗教
762	藤野豊編『近現代日本ハンセン病問題資料集成 編集復刻版 戦前編1～8』（不二出版、2002年）	ハンセン病
763	鈴木由利子「産児制限をめぐる制度と社会：明治時代以降の歴史を中心に」（『紀要』〈東北学院大・東北文化研〉34、2002年）	社会、命
764	末永和孝『日向国における盲僧の成立と変遷』（鈺脈社、2003年）	視覚障害
765	西海賢二「巫覡盲僧と身分的周縁—「身分的周縁をめぐる」シンポジウムによせて」（福田晃古稀記念論集刊行委員会編『伝承文化の展望』三弥井書店、2003年）	視覚障害
766	金蘭九「戦前障害者政策の生成：視覚障害者教育政策の日韓比較」（『九州看護福祉大学紀要』5（1）、2003年）	視覚障害
767	本多創史「生誕する「聾者」—新たなその身体と精神の創出過程—」（見田宗介他編『ライブラリ相関社会科学8 〈身体〉は何を語るのか—20世紀を考える（Ⅱ）—』新世社、2003年）	聴覚障害
768	清水寛「軍隊と知的障害者—付・精神障害元兵士の戦後史の断面—」（『季刊戦争責任研究』39、2003年）	知的障害、戦争
769	小平千文「長野県最初の盲ろう教育機関：松本訓盲院設立と東筑摩郡下の盲ろう教育環境」（『松本市史研究』13、2003年）	障害

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
770	河野勝行「素描・障害者史研究の課題と方法」（『手話コミュニケーション研究』47、2003年）	障害
771	服部正『アウトサイダー・アート：現代美術が忘れた「芸術」』（光文社、2003年）	美術、障害
772	永井順子「『狐憑き』の言説／『精神病患者』の言説」（『社会学論集・早稲田大学大学院社会科学研究所』1、2003年）	憑物、精神障害
773	昼田源四郎「日本における精神障害者の責任能力と監護に関する法制度：古代から近世まで」（『精神神経学雑誌』105-2、2003年）	精神障害
774	中谷陽二「日本の精神医療史と触法精神障害者」（『精神神経学雑誌』105-2、2003年）	精神障害
775	中村満紀男・荒川智編『障害児教育の歴史』（明石書店、2003年）	障害、教育
776	平田勝政「日本障害児教育史の時期区分・試論」（中村満紀男・荒川智編『障害児教育の歴史』明石書店、2003年）	障害、教育
777	糸賀一雄『この子らを世の光に ―近江学園20年の願い―』（柏樹社、2003年）	障害、施設
778	高木博史「戦後日本の障害者運動 ―発達保障概念と政党イデオロギーを巡る対立を越えて―」（『立正社会福祉研究』5(1)、2003年）	障害、運動
779	谷口眞子「塚本学著『生きることの近世史：人命環境の歴史から』」（『歴史評論』636、2003年）	命
780	荻野美穂「墮胎・間引きから水子供養まで：日本の中絶文化をめぐって」（赤坂憲雄他編『いくつもの日本Ⅳ：女の領域・男の領域』岩波書店、2003年）	命
781	井上隆明「近世後期の出産をめぐる意識」（『七隈史学』4、2003年）	命
782	金津日出美「江戸期産術書にみられる生殖論 ―産む身体とはだれの身体か―」（『会報』（日本思想史研究会）20、2003年）	命、医学
783	竹政寿幸「江戸時代における医師の拡がりについて：三河国宝飯郡を例に」（『愛大史学』（日本史・アジア史・地理学）12、2003年）	医師
784	金井清光『中世の癪者と差別』（岩田書院、2003年）	ハンセン病
785	赤松啓介『民謡・猥歌の民俗学』（明石書店、2003年）	民俗
786	日外アソシエーツ株式会社『民謡・昔話集内容総覧』（日外アソシエーツ、2003年）	民俗
787	ことわざ研究会『ことわざ資料叢書』第2輯（クレス出版、2003年）	俚諺
788	国学院大学日本文化研究所『歌のちから：岩手県旧江刺郡の民俗歌謡資料と研究』（瑞木書房、慶友社、2003年）	民俗
789	野崎伝助『喚起泉達録 越中奇談集』（桂書房、2003年）	民俗
790	福代宏「野間宗蔵の「怪談記」について」（『鳥取県立博物館研究報告』40、2003年）	怪異
791	成清弘和『女性と穢れの歴史』（塙書房、2003年）	女性、差別
792	斎藤洋一「近世の被差別民と医薬業・再考」（『部落解放研究』153、2003年）	賤民、医薬
793	中村禎里『狐の日本史 近世・近代篇』（日本エディタースクール出版部、2003年）	憑物
794	中西直樹「ハンセン病と真宗」（『真宗研究』47、2003年）	ハンセン病、宗教
795	藤野豊編『近現代日本ハンセン病問題資料集成 編集復刻版：戦後編1～10、補巻別冊』（不二出版、2003年）	ハンセン病
796	古城正佳「米沢藩前期・中期における責任能力」（『米沢藩刑法』専修大学出版局、2003年）	責任能力
797	古城正佳「米沢藩後期における責任能力」（『米沢藩刑法』専修大学出版局、2003年）	責任能力
798	海原亮「近世後期藩領における「医療」の展開」（『史学雑誌』112(11)、2003年）	医療
799	片渕美穂子「身体の自然性と江戸養生論」（『和歌山大学教育学部紀要（人文科学）』53、2003年）	身体
800	瀧澤利行『養生論の思想』（世織書房、2003年）	養生
801	酒井シヅ『絵で読む江戸の病と養生』（講談社、2003年）	養生、病気
802	高橋彩「看護職と国家：ロックフェラー財団による戦間期公衆衛生事業の考察」（氏家幹人他編『日本近代国家の成立とジェンダー』柏書房、2003年）	衛生
803	森川恭剛「無頼県沖縄への救済運動：ハンセン病絶対隔離政策の真相究明のために」（『琉大法学』69、2003年）	ハンセン病

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
804	金川英雄「江戸時代の古文書：守山御日記にみる精神障害者」（『精神医学史研究』8(1)、2004年）	精神障害
805	金川英雄「江戸時代の古文書にみる精神障害者」（『精神医学研究所業績集』41、2004年）	精神障害
806	菅原道哉他「仙台四郎（シロ馬鹿）：ルネッサンス期の“Fool”の概念をとおして」（『こころと文化』3(2)、2004年）	知的障害
807	中村満紀男他『優生学と障害者』（明石書店、2004年）	優生、障害
808	清水寛編『セガン 知的障害教育・福祉の源流 ―研究と大学教育の実践―』（日本図書センター、2004年）	障害、教育、福祉
809	津曲裕次『障害児教育・福祉年史集成』（日本図書センター、2004年）	障害、教育、福祉
810	津曲裕次編『写真・絵画集成 日本の障害児教育』（全3巻）（日本図書センター、2004年）	障害、教育
811	加藤康昭さんを偲ぶ会『障害者社会史研究の地平を拓く：故加藤康昭先生の生涯と業績』（「加藤康昭さんを偲ぶ会」事務局、2004年）	障害、社会
812	姜博久「侏儒に関する一考察 ―障害者の存在形態をめぐる憶説―」（『古代史の研究』11、2004年）	障害
813	沢山美果子「近世後期の出生をめぐる諸問題：墮胎・間引きから捨子まで」（『研究紀要・順正短大』32、2004年）	命
814	日外アソシエーツ株式会社『民話・昔話集作品名総覧』（日外アソシエーツ、紀伊国屋書店、2004年）	民俗
815	酒井耕造「会津藩における種痘の普及と民俗」（『研究報告』（歴博）116、2004年）	医療、民俗
816	田中斉「疱瘡絵に秘められた呪力：疱瘡除けの菓子袋と養生思想」2004（『和菓子』11、2004年）	疱瘡、養生
817	鯨井千佐登「仙台藩領の「癩人小屋」について」（『東北学院大・東北文化研・紀要』36、2004年）	ハンセン病
818	蘭由岐子「生活史を語ることの困難：あるハンセン病者の語りから」（『歴史評論』656、2004年）	ハンセン病
819	成田稔「わが国の癩（らい）対策における隔離の時代的変遷」（『歴史評論』656、2004年）	ハンセン病
820	平井雄一郎「私立癩療養所「慰廃園」考」（『歴史評論』656、2004年）	ハンセン病
821	園井ゆり「優生思想の社会史序説 ―明治以降の日本社会を例に―」（『矯正社会学』（九州大学人間環境学研究院共生社会学講座）4、2004年）	優生、社会
822	松岡弘之「太田正男（木下杢太郎）のハンセン病研究について」（『歴史評論』656、2004年）	ハンセン病
823	吉田伸之「私の近世身分研究」（『部落問題研究』170、2004年）	身分
824	中尾健次「大阪の「非人」研究について」（『部落解放史・ふくおか』114、2004年）	賤民
825	片岡智「近世社会と性的身体の変容：肉体と色恋のジェンダー配分」（頼祺一先生退官記念論集刊行会編『近世近代の地域社会と文化』清文堂、2004年）	性
826	黒川みどり『つくりかえられる徴：日本近代・被差別部落・マイノリティ』（解放出版社、2004年）	賤民、表象
827	板原和子・桑原治雄「江戸時代後期の精神障害者処遇「溜預」について」（『精神医学史研究』9(1)、2005年）	精神障害
828	ジェラルド・グローマー「松代の瞽女」（『信濃』57(2)、2005年）	視覚障害
829	佐藤陽子「障害児保育 特別な援助を必要とする子どもの保育の歴史：寺子屋時代から今日まで」（『尚絅学院大学紀要』51、2005年）	障害、保育
830	山本正志『ことばに障害がある人の歴史をさぐる』（文理閣、2005年）	言語障害
831	中村治「精神医療の流れと洛北岩倉：第二次世界大戦まで」（『大阪府立大学紀要』（人文・社会科学）53、2005年）	精神障害
832	中村治「洛北岩倉における精神病者の処遇」（『大阪府立大学紀要』2、2005年）	精神障害
833	長谷川潮『児童文学のなかの障害者』（ぶどう社、2005年）	障害、文学
834	椎原晩声「五体不具と改葬穢」（『国学院大学大学院紀要』（文学研究科）36、2005年）	障害、差別
835	永井順子「「精神病者」と刑法第39条の成立―「主体ならざるもの」の系譜学・序説」（『ソシオサイエンス』11、2005年）	責任能力、精神障害
836	勝野有美「近代日本における身体障害者像の変遷：貧困と労災に関する政策・調査の対象規程を通して」（『三田学会雑誌』97(4)、2005年）	身体障害
837	藤野ヤヨイ「我が国における精神障害者処遇の歴史的変遷：法制度を中心に」（『新潟青陵大学紀要』5、2005年）	精神障害

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
838	山田耕太「松代藩領の盲人—弘化三年東寺尾村飴屋兵助女子一件—」（渡辺尚志編『藩領域の構造と変容—信濃国松代藩地域の研究—』岩田書院、2005年）	視覚障害
839	津名道代『日本史に探る聴覚障害者群像』（文理閣、2005年）	聴覚障害
840	高橋智「先達に学び業績を知る：障害者社会史研究の開拓者 故・加藤康昭博士」（『視覚障害』200、2005年）	障害、社会
841	田中耕一郎『障害者運動と価値形成』（現代書館、2005年）	障害、運動
842	高橋淳子・平田勝政編『知的・身体障害者問題資料集成 戦前編』第1～16巻（不二出版、2005～6年）	障害
843	高橋智・川合隆平「文献目録 日本障害児教育史・障害者問題史研究文献リスト（1992-2005年）」（『障害者問題史研究紀要』40、2005年）	障害、文献目録
844	下重清「『道の者』たちの一七世紀 徘徊する人びとの実像にせまる—」（小田原近世史研究会編『交流の社会史』岩田書院、2005年）	社会、徘徊
845	塚田孝「人別帳と掟を通じてみた日本近世の身分」（『部落問題研究』173、2005年）	身分
846	野村純一『伝承文学研究の方法』（岩田書院、2005年）	伝承
847	ことわざ研究会『ことわざ資料叢書』第3輯（クレス出版、2005年）	俚諺
848	高石史人『仏教福祉への視座』（永田文昌堂、2005年）	宗教、福祉
849	宮前千雅子「前近代における癪者の存在形態について」上・下（『部落解放研究』166～167、2005年）	ハンセン病
850	脇田晴子「女人禁制と触穢思想：ジェンダーと身体的性差」（『女性史学』15、2005年）	性、差別
851	寺木伸明「元禄期における天王寺「非人」集団の諸側面：悲田院中間宗旨改帳と類族生死改帳を手がかりとして」（『部落解放研究』165、2005年）	賤民
852	廣川和花「ハンセン病者の療養形態に関する考察：群馬県吾妻郡草津町湯之沢部落の事例から」（『部落問題研究』173、2005年）	ハンセン病
853	松岡弘之「ハンセン病療養所における患者自治の模索」（『部落問題研究』173、2005年）	ハンセン病
854	沢山美果子『性と生殖の近世』（勁草書房、2005年）	性
855	藤本清二郎「江戸期、城下町における行倒人・孤独人の介抱と扶養：和歌山城下非人村への収容者を中心に」（『紀要』〈和歌山大・紀州経済史文化史研〉25、2005年）	行き倒れ
856	篠田達明『徳川将軍家十五代のカルテ』（新潮社、2005年）	病気
857	福田真人・鈴木則子編『日本梅毒史の研究：医療・社会・国家』（思文閣出版、2005年）	梅毒
858	鈴木則子「江戸時代の医学書に見る梅毒観について」（福田真人他編『日本梅毒史の研究』思文閣出版、2005年）	梅毒
859	瀧澤利行「養生・衛生の世界と性の陰翳」（福田真人他編『日本梅毒史の研究』思文閣出版、2005年）	養生、衛生
860	大川由美「近代検閲制度の導入と梅毒病院」（福田真人他編『日本梅毒史の研究』思文閣出版、2005年）	梅毒、病院
861	藤野豊「ハンセン病問題と部落問題の接点」（『部落解放研究』164、2005年）	ハンセン病、賤民
862	小野真知子「近世の社会的弱者について：秋田藩の政策を中心に」（『秋大史学』51、2005年）	弱者
863	桑原真木子「戦後日本における優生学の展開と教育の関係」（『教育社会学研究』76、2005年）	優生
864	井村圭壯『日本の養老院史：「救護法」期の個別施設史を基盤に』（学文社、2005年）	老い
865	ひろたまさき『女の老いと男の老い：近代女性のライフサイクル』（吉川弘文館、2005年）	老い、性
866	飯倉義之「愚か村の「伝説」 一笑いというもののいい、愚か村という現場—」（『国文学 解釈と鑑賞』893、2005年）	愚か村、笑い
867	戸塚悦朗「犯罪行為をおかした精神障害者の処遇をめぐる歴史的な側面からの視点」（『日本社会精神医学会雑誌』14(3)、2006年）	精神障害
868	鈴木英鷹他「江戸時代には精神障害に関してどのような病名が流布していたか：薬の効能書による検討」（『日本精神科病院協会雑誌』25(2)、2006年）	精神障害、医学
869	松野高尚「長塚節の「はたらく者」と障害者への“優情”（一）（二）：正岡子規の「理想的愛子」として」（『耕人』12～13、2006年）	障害認識
870	本田貴子他「越後瞽女の伝承：米沢市塩井地区の聞取調査から」（『米沢史学』22、2006年）	視覚障害

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
871	中野聡「高田盲学校創立者・大森隆碩（2）」（『頸城文化』54、2006年）	視覚障害
872	戸崎敬子「沖縄県における「特別学級」の歴史 1 大正期文部省による「特別学級」に関する全国調査を中心に」（『紀要』（琉球大・教育）68、2006年）	障害、教育
873	岡田英己子「優生学と障害の歴史研究の動向：ドイツ・ドイツ語圏と日本との国際比較の視点から」（『特殊教育学研究』44(3)、2006年）	障害、優生
874	桜井強「全日本聾唖連盟前身の日本聾唖協会創立の経緯について」（『日本聾史学会報告書』4、2006年）	障害、運動
875	川部裕幸「疱瘡の酒場儀礼と「生まれ清まり」の観念」（『成城文藝』194、2006年）	天然痘、命
876	片渕美穂子「身体と喩え：江戸の養生言説における身体認識（上）」（『和歌山大学教育学部紀要（人文科学）』56、2006年）	身体、養生
877	友常勉「黒川みどり『つくりかえられる徴：日本近代・被差別部落・マイノリティ』（『歴史学研究』810、2006年）	差別、表象
878	杉山博昭「山口県におけるハンセン対策の展開：無癰県運動を中心に」（『山口県史研究』14、2006年）	ハンセン病
879	高村恵美「沢村美果子著『性と生殖の近世』（『女性史学』16、2006年）	命
880	岩尾俊一郎他「民俗の知と精神医療」（『治療の声』7(1)、2006年）	精神医療、民俗
881	塚田孝「身分的周縁論」（『日本歴史』700、2006年）	身分
882	生瀬克己「破壊される心と身体」（倉沢愛子他編『岩波講座 アジア・太平洋戦争6 日常生活の中の総力戦』岩波書店、2006年）	生活、戦争
883	関西労災職業病研究会編『労災職業病闘争小史』（アットワークス、2006年）	職業病
884	ジェラルド・グロマー『瞽女と瞽女唄の研究』研究篇・資料篇（名古屋大学出版会、2007年）	視覚障害
885	広瀬浩二郎「“見えない”者たちが創った日本史：琵琶法師、イタコ、瞽女からの問いかけ」（『部落解放』586、2007年）	視覚障害
886	橋本明「わが国の精神科領域における「患者・家族・地域の歴史」研究序論：精神病患者監護法下における監置患者の暮らしと地域社会」（『精神医学史研究』11(2)、2007年）	精神障害
887	芹沢一也編『時代がつくる「狂気」：精神医療と社会』（朝日新聞社、2007年）	精神医療
888	児玉和夫「障害児療育の歴史的変遷」（『近畿新生児研究会会誌』16、2007年）	障害、療育
889	河東田博「障害者差別の歴史と障害者運動」（岡本民夫他編『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規出版、2007年）	障害、差別
890	星加良司『障害とは何か：ディスアビリティの社会理論に向けて』（生活書院、2007年）	障害
891	立岩真也「障害の位置 ―その歴史のために―」（高橋隆雄他編『日本の生命倫理 ―回顧と展望―』九州大学出版会、2007年）	障害
892	阿部光麿「伊藤仁斎における性の位置と人性論の役割」（『東洋の思想と宗教』24、2007年）	人間
893	佐々木香織「同化と教化」（『哲学・思想論叢・筑波大』25、2007年）	人間
894	海原亮『近世医療の社会史』（吉川弘文館、2007年）	医療
895	柳谷慶子『近世の女性相続と介護』（吉川弘文館、2007年）	介護
896	今井秀和「片輪車という小歌：妖怪の母体としての言語」（『日本文学研究』（大東文化大学）46、2007年）	表象
897	鈴木健一「江戸時代の文学が描いた恋愛：日常性と狂気性」（『文学』8(5)、2007年）	狂気
898	今井秀和「『甲子夜話』怪異・奇聞一覧（附索引）」（『日本文学研究誌』（大東文化大学）5、2007年）	伝承
899	鈴木則子「江戸時代の医学と「癩」」（『リベラシオン』125、2007年）	ハンセン病
900	礪川全次編『穢れと差別の民俗学』（批評社、2007年）	差別、民俗
901	乾武俊「民俗学は差別をとらえるか」（『日本民俗学』252、2007年）	差別、民俗
902	岩田重則「民俗学と差別：柳田民俗学の形成および「常民」概念をめぐる」（『日本民俗学』252、2007年）	差別、民俗
903	政岡伸洋「差別と人権の民俗学：部落問題をめぐる議論を中心に」（『日本民俗学』252、2007年）	差別、人権
904	井村圭壯他編『日本社会福祉史：明治期から昭和戦前期までの分野別形成史』（勁草書房、2007年）	福祉

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
905	片淵美穂子「身体と喩え：江戸の養生言説における身体認識（下）」（『和歌山大学教育学部紀要（人文科学）』57、2007年）	身体
906	金子正宏「沼田藩の小児養育制度について」（『群馬文化』291、2007年）	子ども、養育
907	島野裕子・白水浩信「『かにばば』と胎毒：近世産育書における「胎毒」観の変遷に関する一考察」（『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』1（1）、2007年）	命
908	沢山美果子「歴史における性・生殖・身体」（『年報』（立大・日本学研）6、2007年）	性、身体
909	梅田千尋「近世奈良の盲僧組織」（青柳周一他編『近世の社会と宗教1』吉川弘文館、2008年）	視覚障害
910	宮野弘樹「近世後期青蓮院による盲僧支配の実態」（『七隈史学』9、2008年）	視覚障害
911	高橋義信「車いすの歴史」（『神戸学院総合リハビリテーション研究』4（1）、2008年）	障害、補助
912	成竹精一「江戸時代の高齢者・障害者の生活：坂木村・海尻村・赤沼村の事例」（『長野県立歴史館研究紀要』14、2008年）	障害、古い
913	西尾祐吾「大石順教と身体障害者福祉」（『プール学院大学研究紀要』48、2008年）	身体障害、福祉
914	頼尊恒信「真宗における障害者福祉の研究：「自然」をキーワードとして」（『印度學佛教學研究』57（1）、2008年）	障害、宗教
915	荒井裕樹「障害者の自己表現：横田弘の詩と思想」（『国語と国文学』85（2）、2008年）	障害、表象
916	西脇智子「京都盲啞院における地域と学校の「つながり」考：京都市学校歴史博物館企画展を中心に」（『保健医療社会学論集』19巻特別、2008年）	視覚言語障害、教育
917	高橋俊彦「近代精神医学の黎明期と精神病者の処遇」（『医療福祉研究』4、2008年）	精神障害、医学
918	中村治「洛北岩倉における精神病者の処遇」（『精神医学史研究』12（1）、2008年）	精神障害
919	中村治「精神病院設立前の洛北岩倉における精神病者の処遇」（『精神医学史研究』12（2）、2008年）	精神障害
920	中村治「京都の岩倉において精神障害者家族的看護を可能にした社会的条件」（『日本医史学雑誌』54（2）、2008年）	精神障害、看護
921	金川英雄・堀みゆき・橋本明「東京の民間精神障害者施設のお滝場としての高尾山の歴史」（『日本社会精神医学会雑誌』17（1）、2008年）	精神障害
922	兵頭晶子『越境する近代6 精神病の日本近代：憑く心身から病む心身へ』（青弓社、2008年）	精神障害
923	杉原努「戦後我が国における障害者雇用対策の変遷と特徴 1～2」（『社会福祉学部論集』（仏教大）4～5、2008年）	障害、生活
924	杉本章『増補改訂版 障害者はどう生きてきたか：戦前・戦後障害者運動史』（現代書館、2008年）	障害、社会
925	タイモン・スクリーチ・秦剛平 訳「私の春画考：男色春画」（『色模様百態』（別冊太陽）、2008年）	性、美術
926	妻鹿淳子『近世の家族と女性：善事褒賞の研究』（清文堂、2008年）	家族、道徳
927	香西豊子「奇疾と怪妖：人面瘡譚の展開にみる近世の身体の位相」（小松和彦還暦記念論集刊行会『日本文化の人類学／異文化の民俗学』法蔵館、2008年）	病気、身体
928	小高修司「医書における「鬼（神）」について」（『日本医史学雑誌』54（3）、2008年）	病気、鬼神
929	中村光夫編『「疱瘡」資料・文献目録：中村教材資料文庫所蔵』（中村教材資料文庫シリーズ、47）（中村光夫、2008年）	天然痘
930	藤本清二郎「近世城下町の行倒死と「片付」：和歌山の場合」（『部落問題研究』184、2008年）	行き倒れ
931	竹永三男「行き倒れ」の近代史：明治政府・福島県の「行き倒れ」対応法制と日露戦後の福島県における「行き倒れ」事例の検討（『部落問題研究』184、2008年）	行き倒れ
932	長島淳子「幕藩性社会における性規範：女性の男装をめぐる」（『総合女性史研究』25、2008年）	性
933	坂井建雄『身体観の歴史』（岩波書店、2008年）	身体
934	片淵美穂子「16世紀後半から17世紀前半における養生の文脈：生命の価値に焦点つけて」（『和歌山大学教育学部紀要（人文科学）』58、2008年）	命、養生
935	鈴木貞美『日本人の生命観：神、恋、倫理』（中央公論新社、2008年）	命
936	大出春江「性と出産の近代と社会統制：雑誌メディアからみた衛生観念・家族規範・国民意識の形成とその回路」（『研究報告』（歴博）141、2008年）	性、命
937	中澤務「近代日本における優生学の形成と雑誌『人性』（『文学論集』（関西大）57（4）、2008年）	優生

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
938	勝野有美「障害者」（友永健三・渡辺俊雄編『部落史研究からの発信 第3巻 現代編』解放出版社、2009年）	障害
939	岩崎大輔・新福高隆「江戸前期における精神障害者の法的処遇に関する研究」（『精神医学史研究』13(2)、2009年）	精神障害
940	沼田真里「素木しづ論：〈健康な不具者〉というパラドクス」（『社会文学』30、2009年）	障害、健康
941	森本浩雅「甲府瞽女文書―幕末期の甲府瞽女の動向とその伝承について―」（『日本文学研究』48、2009年）	視覚障害、伝承
942	愼英弘「視覚障害者の選挙権確立の歴史」（『四天王寺大学大学院研究論集』4、2009年）	視覚障害
943	三浦卓「『少女の友』のコミュニティーと川端康成「美しい旅」：〈障害者〉から〈満州〉へ」（『日本近代文学』80、2009年）	障害、文学
944	金川英雄・堀みゆき「精神障害者と修験道東京高尾山の歴史」（『日本社会精神医学会雑誌』18(1)、2009年）	精神障害
945	金川英雄・堀みゆき『精神病院の社会史』（青弓社、2009年）	精神障害、病院
946	河内重雄「青来有一「石」論：なぜ知的障害者を語り手にしたのか」（『文学・語学』194、2009年）	知的障害、文学
947	山田明「戦前私的障害者施設の経営と実践の研究」（学術出版会、2009年）	知的障害、施設
948	吉積久年「近世、眼病を巡る人々の動き：徳山藩における筑前目医師田原氏を中心に」（『山口県文書館研究紀要』36、2009年）	眼病
949	真柳誠「日本の医薬・博物著述年表」（『人文コミュニケーション学科論集』（茨城大）7、2009年）	医学
950	海原亮「医療知識の移動と普及」（『ヒストリア』213、2009年）	医学
951	香西豊子「近世後期における「伝染病」学説 ―「市川橋本伯寿著断毒論一件」の分析を通して―」（『日本医史学雑誌』55(4)、2009年）	医学
952	東昇「近世肥後国天草における疱瘡対策：山小屋と他国養生」2009（『京都府立大学学術報告（人文）』61、2009年）	病気
953	秋葉聰「伝統的な優生思想と今日の優生思想」（『社会臨床雑誌』17(1)、2009年）	優生
954	藤野豊『戦争とハンセン病』（吉川弘文館、2009年）	ハンセン病
955	棚橋久美子「妻鹿淳子著・近世の家族と女性 善事褒賞の研究」（『女性史学』19、2009年）	家族、道德
956	湯本豪一編『明治期怪異妖怪記事資料集成』（国書刊行会、2009年）	怪異、表象
957	勝又基「日本近世における孝子表彰の発生：孝子説話研究のために」（『東アジア比較文化研究』8、2009年）	孝子、説話
958	谷川健一『賤民の異神と芸能：山人・浮浪人・非人』（河出書房新社、2009年）	芸能、賤民
959	沢山美果子「出産と医療を通してみた近世後期の胎児・赤子と母の「いのち」」（『文化共生学研究』8、2009年）	命
960	岩田重則『〈いのち〉をめぐる近代史：堕胎から人工妊娠中絶へ』（吉川弘文館、2009年）	命
961	猪股清郎「山岳修行者「播隆」の行動と思想：「山岳信仰」における生（いのち）観」（『大正大学総合仏教研究所年報』31、2009年）	命
962	柴田周二「二宮尊徳と社会福祉」（『京都光華女子大学研究紀要』47、2009年）	福祉
963	橋口侯之介「特集・養生法 江戸の養生論」（『叢書月刊』25(5)、2009年）	養生
964	大杉由香「近代日本の福祉制度の成立過程とその背景」（『歴史と地理』622、2009年）	福祉
965	家塚智子「盲人が茶を碾くということ：救済の視点からみた喫茶文化史点描」（『救済の社会史』世界人権問題研究センター、2010年）	視覚障害、文化
966	山路興造「社会システムとしての救済（福祉）：盲人社会を例に」（『救済の社会史』世界人権問題研究センター、2010年）	視覚障害
967	伊勢市視覚障害者福祉会『光を求めて 一度会盲人鍼灸協会からの百年―』（伊勢市視覚障害者福祉会、2010年）	視覚障害、運動
968	藤井渉「徴兵制と障害者」（『医学史研究』92、2010年）	障害、国家
969	森杜也編『途上国障害者の貧困削減』（岩波書店、2010年）	障害、福祉

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
970	山田明『戦前知的障害者施設の経営と実践の研究』（学術出版社、2010年）	知的障害
971	三浦藍「戦前、精神障害者の治療を担っていた民間施設とは：岩瀧寺における精神病治療」（『精神看護』13(4)、2010年）	精神障害
972	澤田恵子「戦前、精神障害者の治療を担っていた民間施設とは：富士山中にあった民間療施設「不二大和同園」（『精神看護』13(3)、2010年）	精神障害
973	金川英雄「戦前、精神障害者の治療を担っていた民間施設とは：高尾山のお滝場が関東圏で果たしていた役割」（『精神看護』13(1)、2010年）	精神障害
974	西川薫『日本精神障害者政策史：戦前期を中心として』（考古堂書店、2010年）	精神障害
975	橋本明編『治療の場所と精神医療史』（日本評論社、2010年）	精神医療
976	橋本明「山梨県身延の精神病者」（『人間発達学研究』1、2010年）	精神障害
977	足立孝子「触法精神障害者の処遇とその歴史：歴史上の事件と処遇の顛末」（『皇學館大学社会福祉学部紀要』13、2010年）	精神障害
978	吉野由美子「精神看護の歴史と展望」（『東海大学医療技術短期大学看護研究施設論文集』19、2010年）	精神障害
979	嶋守瞳・五十嵐靖夫「大正・昭和期の文学作品における障害者観の変化に関する考察」（『北海道特別支援教育研究』4、2010年）	障害認識、文学
980	八百啓介「『厚生新編』における心的疾病」（『北九州市立大学文学部紀要』78、2010年）	精神障害
981	井上俊宏『近代日本の精神医学と法：監禁する医療の歴史と未来』（ぎょうせい、2010年）	精神障害
982	小野田貴夫「『注文の多い料理店』のリアリティ：『発達障害当事者研究』から見た物語」（『常葉国文』32、2010年）	発達障害、文学
983	市澤豊『戦後発達障害児教育実践史』（明石書店、2010年）	発達障害、教育
984	佐々木順二「明治末期から昭和戦前期の耳鼻咽喉科医師による聾啞教育への関与：九州帝国大学医学部耳鼻咽喉科学教室を中心に」（『障害科学研究』34、2010年）	障害
985	大泉博他『障害児実態調査の戦前と戦後』（精神薄弱児実態調査委員会・厚生省児童局、クレス出版、2010年）	障害
986	角岡伸彦『カニは横に歩く ―自律障害者たちの半世紀―』（講談社、2010年）	障害
987	赤坂憲雄『内なる他者のフォークロア』（岩波書店、2010年）	差別、民俗
988	小林ふみ子「日本近世における女性の身体に対する性的まなざし：「あぶな絵」が示すもの」（『人体と身体性』（国際日本学研究叢書13）、2010年）	性
989	沢山美果子「一関藩の「育子仕法」からみた武士層の妊娠、出産」（『文化共生学研究』9、2010年）	命
990	小野真理子「資料の紹介『小児必要養育草 巻一～六』正徳4年（1714）版」（『東京家政学院大学図書館報』56、2010年）	医学
991	関根透「香月牛山の医の倫理観」（『鶴見大学紀要』（人文・社会・自然科学）47、2010年）	医学
992	島野裕子「胞衣にみる産と育への配慮：近世産育書における子どもと母の関係」（『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』4(1)、2010年）	産育
993	上野陽里「明治時代初期の疾病事情：国民の疾病と日清戦争」（『医学史研究』93、2010年）	病気
994	小林慧子「北のハンセン病者：北部保養院に生きた人々」（『年報新人文』7、2010年）	ハンセン病
995	横山尊「国民優生法成立の再検討 ―法案論議と科学啓蒙のあいだ―」（『社会思想史研究』（社会思想史学会年報）34、2010年）	優生
996	中尾麻伊香、住田朋久「近代日本の脳病薬広告にみる脳」（UTCP「脳科学と倫理」プログラム編『脳科学時代の倫理と社会』東京大学、2010年）	病気
997	宝月理恵『近代日本における衛生の展開と受容』（東信堂、2010年）	衛生
998	ジェラルド・グローマー「瞽女研究拾遺」（『万葉古代学研究所年報』9、2011年）	視覚障害
999	河内将芳「宇喜多秀家夫人の「御病」と伏見稲荷社―「狐狩」と「陰陽師狩」をめぐる―」（『朱』（伏見稲荷大社）55、2011年）	精神障害
1000	小野尚香「知的障害児教育の源流：医師・三田谷啓の提言」（『医譚』110、2011年）	知的障害、教育
1001	金珉呈「日本における障害児保育の前史 ―恩賜財団愛育会における母子愛育事業と「異常児保育」の実験研究の展開を通して―」（『社会福祉学研究』（日本福祉大学大学院社会福祉学研究科）6、2011年）	障害、保育、母子

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1002	高野聡子「戦時下における精神薄弱児施設の苦悩 ―藤倉学園の疎開生活の実態―」（『東京社会福祉史研究』5、2011年）	知的障害、生活
1003	宮島鏡・関口静雄「痼病尊神と二宮尊徳」（『芸文稿』4、2011年）	病、宗教
1004	柳谷慶子『江戸時代の老いと看取り』（山川出版社、2011年）	老い
1005	沢山美果子「性と生殖からみた近世女性の身体と子どもの「いのち」」（『民衆史研究』81、2011年）	生命、性
1006	柴田純「近世パスポート体制の影：乞食の処遇をめぐる」（『史窓』（京都女大）68、2011年）	賤民
1007	全国情緒障害教育研究会編・野村東助他監修『全国情緒障害教育研究会からみた自閉症教育のあゆみと今後の展望』（ジアース教育新社、2011年）	情緒障害
1008	松岡弘之「戦前期ハンセン病療養所における患者自治：1936年長島事件をめぐる」（『ヒストリア』229、2011年）	ハンセン病
1009	山田巖子「マイノリティをめぐる「語彙」と「文脈」」（『研究報告・歴史民俗博物館』165、2011年）	語彙、弱者
1010	廣川和花『近代日本のハンセン病問題と地域社会』（大阪大学出版会、2011年）	ハンセン病
1011	薦田治子「盲僧琵琶の誕生について：北九州に伝存する楽器資料の調査から」（『芸能史研究』196、2012年）	視覚障害
1012	長尾栄一「〈講演〉江戸時代の二人の盲偉人：和一と保己一の相違点と類似点」（『世界に誇る江戸期の盲目の偉人杉山和一と塙保己一』、2012年）	視覚障害
1013	岡典子他「日本書紀盲学校の創設理念とその達成状況に関する検討 ―高田・福島・東海三校の比較―」（『障害科学研究』36、2012年）	視覚障害、教育
1014	久松寅幸編『視覚障害教育の歴史・現状・課題 ―職業教育・進路保障と地域支援の充実を願って―』（岡山ライトハウス、2012年）	視覚障害、教育
1015	青木歳幸・新地浩一「江戸時代の医学史：安藤昌益の精神病論を中心に」（『こころの健康』27(1)、2012年）	精神障害
1016	丸本由美子「江戸期日本の乱心者と清代中国の瘋病者（上）：その刑事責任に関する比較研究を中心として」（『北陸史学』59、2012年）	責任能力、精神障害
1017	工藤力男「絆 里山 障がい者：日本語雑記・続後拾遺」（『成城文芸』221、2012年）	障害、文学
1018	小藺崇明「関東大震災下に虐殺されたろうあ者とその後のろう教育」（『人民の歴史学』194、2012年）	聴覚言語障害、災害
1019	清原舞「身体障害者福祉政策の歴史的展開」（『桃山学院大学社会学論集』45(2)、2012年）	身体障害
1020	丸本由美子「江戸期日本の乱心者と清代中国の瘋病者（下）：その刑事責任に関する比較研究を中心として」（『北陸史学』60、2013年）	責任能力、精神障害
1021	中村治「京都癲狂院設立目的再考」（『精神医学史研究』16(2)、2012年）	精神障害
1022	金川英雄『日本の精神医療史：明治から昭和初期まで』（青弓社、2012年）	精神障害
1023	後藤基行「戦前期日本における私立精神病院の発展と公費監置：「精神病者監護法」「精神病院法」下の病床供給システム」（『社会経済史学』78(3)、2012年）	精神障害
1024	後藤基行「戦前期日本における精神病者の公的監置：精神病者監護法下の患者処遇」（『精神医学史研究』16(2)、2012年）	精神障害
1025	桐原尚之「1980年から1987年の精神障害当事者の運動史」（『病院・地域精神医学』55(2)、2012年）	精神障害
1026	野田武志「精神病者監護法以前の道府県の規則」（『精神医学史研究』16(1)、2012年）	精神障害
1027	近藤等「日本の東北地方の精神障害者用民間施設」（特集 未来を見すえた戦前の精神医療史）（『精神神経学雑誌』114(10)、2012年）	精神障害、施設
1028	金川英雄「「精神病者私宅監置ノ実況及び其統計的観察」の矛盾と意図」（特集 未来を見すえた戦前の精神医療史）（『精神神経学雑誌』114(10)、2012年）	精神障害
1029	大杉豊「ろう者の歴史と文化を映す言語としての手話」（『ノーマライゼーション：障害者の福祉』32(8)、2012年）	聴覚障害、補助
1030	小西律子「身体障害者福祉法成立に盲人集団が果たした役割」（『社会福祉学』52(4)、2012年）	障害
1031	米津知子「女性運動と障害者運動」（『ノーマライゼーション：障害者の福祉』32-8、2012年）	障害、運動
1032	藤田紀昭「わが国の障害者スポーツの歴史的変遷とその特徴」（『リハビリテーションスポーツ』31(1)、2012年）	障害、スポーツ

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1033	川合隆平『総力戦体制と障害児保育論の形成 ―日本障害児保育史研究序説―』（緑蔭書房、2012年）	障害、保育
1034	河内重雄『日本近・現代文学における知的障害者表象：私たちは人間をいかに語り得るか』（九州大学出版会、2012年）	知的障害、文学
1035	「杉山和一・塙保己一 関連図書目録」（『世界に誇る江戸期の盲目の偉人杉山和一と塙保己一』、2012年）	障害、目録
1036	長谷川雅雄・辻本裕成・ベトロ・クネヒト・美濃部重克「言葉を発する「虫」：「応声虫」という奇病」（『「腹の虫」の研究』、2012年）	病気
1037	西海賢二「飲待と忌避の境界に生きて：日本のモノモライ習俗から」（『もう一つの古典知』、2012年）	病気
1038	風祭元『近代精神医学史研究：東京大学・合衆国・外地の精神医学』（中央公論事業出版、2012年）	精神医学
1039	鯨井千佐登「皮膚の病と境界の神：日本「賤民」史研究への一階梯」（『研究報告』（歴博）174、2012年）	皮膚病、賤民
1040	成瀬高明「藤代村の八歳の少女、男子を出産した話：近世情報文化の一断面」（『椋山女学園大学研究論集』（人文科学篇）43、2012年）	命
1041	東島誠「中世後期～近世都市にみる弱者と生存：合力の論理と排除の論理の関係性について」（『人民の歴史学』193、2012年）	弱者、生存
1042	沢山美果子「都市と農村の関係からみた近世大坂の捨て子たち」（『文化共生学研究』11、2012年）	捨て子
1043	程亮「変貌する狐憑き伝承の類型と諸相：近世随筆と近代口頭伝承における計量的比較考察」（『神戸女学院大学論集』59(2)、2012年）	憑物、伝承
1044	鈴木則子「江戸の流行り病：麻疹騒動はなぜ起こったのか」（吉川弘文館、2012年）	病気
1045	松本純子「特集 歴史・民俗にみる「老人」たち 江戸時代の老い」（『歴博』172、2012年）	老い
1046	清水勲編『江戸戯画事典』（臨川書店、2012年）	戯画
1047	横山尊「戦間期日本の優生学論者と産児調整：論争の発生から国民優生法まで」（『九州史学』161、2012年）	優生
1048	並松信久「明治期京都の感染症とその対応：コレラと衛生都市の形成」（『京都産業大学日本文化研究所紀要』17、2012年）	病気、衛生
1049	高岡裕之「近現代日本「福祉」史研究の課題：「開発主義国家」と「福祉国家」（『歴史科学』208、2012年）	福祉
1050	田中友香里「「人権新説」以後の加藤弘之：明治国家の確立と「強者ノ論理」論の展開」（『史境』64、2012年）	人権
1051	李義昭『日本の近代化と障害者』（晃洋書房、2013年）	障害
1052	山田明『通史 日本の障害者：明治・大正・昭和』（明石書店、2013年）	障害
1053	板原和子「明治初期の精神障害者処遇：江戸時代後期の精神障害者の処遇はどのように推移したのか」（『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』10、2013年）	精神障害
1054	中村治『洛北岩倉と精神医療：精神病患者家族的看護の伝統の形成と消失』（世界思想社、2013年）	精神障害
1055	佐藤雅浩『精神疾患言説の歴史社会学 ―「心の病」はなぜ流行するのか―』（新曜社、2013年）	精神疾患
1056	高野聡子「八幡学園における芸術教育の歴史：知的障害児の発達を育む絵画と造形作品」（『ノーマライゼーション：障害者の福祉』33(8)、2013年）	知的障害、教育
1057	紫陽花まき『難聴者から見た満州の真実』（文芸社、2013年）	聴覚障害
1058	宮地英敏「吉村誠著『偉盲貝島嘉蔵翁』（『エネルギー史研究』28、2013年）	視覚障害、伝記
1059	高野聡子「初期八幡学園における入所児の障害と教育・保護の内容 昭和7（1932）年～昭和12（1937）年を中心として」（『障害科学研究』37、2013年）	障害、教育
1060	田中謙「日本における障害児保育に関する歴史的研究」（『保育学研究』51(3)、2013年）	障害、保育
1061	津曲裕次監修『天地を拓く ―知的障害福祉を築いた人物伝―』（財団法人日本知的障害者福祉協会、2013年）	障害、福祉
1062	水本正人「非人にとっての救いと宗教」（『部落解放研究』197、2013年）	賤民、宗教
1063	宮前千雅子「「癩人小屋」の勧進と地域社会」（『部落解放研究』197、2013年）	ハンセン病
1064	大藤修「老いていかに生きるか：下野の老農「田村吉茂」と仙台藩儒学者「芦東山」（『日本歴史』776、2013年）	老い

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1065	川鍋定男「江戸時代における老人の最後」（『日本歴史』776、2013年）	古い
1066	家近良樹「維新期の人々と古い」（『日本歴史』776、2013年）	古い
1067	新村拓「近代の古いと看取り」（『日本歴史』776、2013年）	古い
1068	豊岡瑞穂「草双紙における〈業病〉の諸相」（『古典文芸論叢』5、2013年）	業病
1069	海原亮「江戸の眼病治療：福岡藩医田原養卜「眼目療治帳」を素材として」（『吉田伸之先生退職記念近世社会史論叢』東京大学日本史学研究室紀要別冊、2013年）	眼病、療治
1070	吉丸雄哉「啓蒙的医学書」（『浸透する教養』、2013年）	医学
1071	菊池勇夫「救済をめぐる公権力と地域社会：天保飢饉下の八戸藩」（『歴史評論』758、2013年）	救済、社会
1072	齊藤紘子「村落社会における「困窮人」への御救と村内施行：泉州泉郡池上村を中心に」（大阪市大・院・文学・都市文化研究センター『都市における貧困と救済』、2013年）	社会、救済
1073	廣川和花「近代日本の医療環境と「病者の社会史」を考えるために：ハンセン病を事例として」（大阪市大・院・文学・都市文化研究センター『都市における貧困と救済』、2013年）	ハンセン病、社会
1074	森正康「女人不浄観と山岳信仰・四国遍路」（愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会・四国地域史研究連絡協議会編『山岳信仰と四国遍路』、同発行、2013年）	女性、差別
1075	中村治「養生所から保養所へ ―健康観の変化と保養所の戦略―」（『精神医学史研究』17(2)、2013年）	健康
1076	尾立貴志「軍事と医療のジレンマ：トリアージの歴史について」（『軍事史学』49(3)、2013年）	軍事、医療
1077	中村治「養生所から保養所へ：健康観の変化と保養所の戦略」（『精神医学史研究』17(2)、2013年）	健康
1078	瀧澤利行「明治期健康思想と社会・国家意識」（『日本医史学雑誌』59(1)、2013年）	健康、社会
1079	松岡弘之「総力戦下のハンセン病療養所：長島愛誠園を中心に」（『部落問題研究』205、2013年）	ハンセン病
1080	福原敏男「東北前沢における疫病鎮定の山鉾祭：民間御霊会終焉の一事例」（ルチア・ドルチェ他編『「神仏習合」再考』勉誠出版、2013年）	病気、民俗
1081	松尾剛次「病の思想史」（荻部直他編『岩波講座 日本の思想5』、2013年）	病気
1082	京都橘大学女性歴史文化研究所編『医療の社会史：生・老・病・死』（思文閣出版、2013年）	医療、社会
1083	西田耕三校訂『怪異の入口 近世説話雑記』（森話社、2013年）	怪異
1084	竹中暉雄「明治5年「学制」 ―通説の再検討―」（ナカニシヤ出版、2013年）	教育
1085	田中謙「戦後日本の聾学校幼稚部開設の推移と初期開設例における幼稚部の特徴」（『聴覚言語障害』42(2)、2014年）	聴覚障害
1086	津曲裕次編『特別支援教育・福祉年史集成』1～10（日本図書センター、2014～15年）	障害、教育
1087	山下麻衣編『歴史のなかの障害者』（法政大学出版局、2014年）	障害
1088	山下麻衣「初等教育と知的障害児」（山下麻衣編『歴史のなかの障害者』法政大学出版局、2014年）	知的障害、教育
1089	梅原秀元「学校と発話障害児」（山下麻衣編『歴史のなかの障害者』法政大学出版局、2014年）	発達障害、教育
1090	鈴木晃仁「脳病院と精神障害の歴史」（山下麻衣編『歴史のなかの障害者』法政大学出版局、2014年）	精神障害、医療
1091	長廣利崇「工業化と障害者」（山下麻衣編『歴史のなかの障害者』法政大学出版局、2014年）	障害、工業化
1092	灘本昌久「部落史で読み解く：もののけ姫に見る賤民・病者・障害者」（山下麻衣編『歴史のなかの障害者』法政大学出版局、2014年）	賤民、障害
1093	小林丈広「障害者の近世・近代」（山下麻衣編『歴史のなかの障害者』法政大学出版局、2014年）	障害
1094	藤原哲也「戦争と障害者の家族」（山下麻衣編『歴史のなかの障害者』法政大学出版局、2014年）	障害、戦争
1095	Groemer, Gerald（ジェラルド・グローマー）『瞽女うた』（岩波書店、2014年）	視覚障害
1096	新井たか子『愛情の庭（若き盲女の日記）』（1942復刻版）（社会福祉法人桜雲会点字出版部、2014年）	視覚障害
1097	橋本明「戦前における民間精神病患者収容所について」（『日本医史学雑誌』60(2)、2014年）	精神障害
1098	高橋和夫・新谷嘉浩・末森明夫「聾札と偽聾」（『聾史会報』44、2014年）	聴覚障害、社会
1099	横田光雄「中世女盲の稼業について」（『千葉史学』64、2014年）	視覚障害
1100	小野尚香「三田谷啓による「低能児」に関わる提言」（『醫譚』116、2014年）	知的障害
1101	安田登「芸能と特殊能力」（『ノーマライゼーション』34(9)、2014年）	芸能、視覚障害

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1102	板原和子「明治初期の精神障害者処遇の形成過程に関する一考察」（『精神医学史研究』18(2)、2014年）	精神障害
1103	板原和子「明治期以降の障害者施設の変遷」（『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』11、2014年）	精神障害、施設
1104	小川英彦『障害児教育福祉の歴史』（三学出版、2014年）	障害、教育
1105	渡邊健治、宮崎英憲監修戦後日本の特別支援教育と世相（ジアース教育新社、2014年）	障害、教育
1106	堀智久『障害学のアイデンティティ：日本における障害者運動の歴史から』（生活書院、2014年）	障害、運動
1107	日本盲教育史研究会編『盲学校史・誌類目録』（桜雲会点字出版部、2014年）	視覚障害、目録
1108	斎藤紘子「近世和泉の村落社会における飢饉と「困窮人」：寛政～文化期の池上村を中心に」（『市大日本史』17、2014年）	社会、困窮
1109	渡辺尚志「災害と「生存」：日本近世を対象として」（『人民の歴史学』200、2014年）	災害、命
1110	竹永三男「『行旅病人及行旅死亡人取扱法』施工後の東京府における「行き倒れ」とその対応行政に関する基礎的研究」（『部落問題研究』207、2014年）	行政、行き倒れ
1111	鈴木長明「東北地方の民話・昔話・伝説に見られた病気治療例の収集と分析（第一報）：青森県、岩手県、秋田県」（『日本歯科医学史学会々誌』30(4)、2014年）	病気、伝承
1112	赤阪俊一他『パンデミック：〈病〉の文化史』（人間と歴史社、2014年）	病気
1113	川上知里『説話化の営み』（『國學院雑誌』115(12)、2014年）	説話
1114	吉田勉「身分論から差別論・穢れ論・境界論・地域社会論へ：歴史学・民俗学・人類学・宗教学などの成果：前近代部落史研究の課題と展望」（『部落解放研究』200、2014年）	差別
1115	谷口雅博「『肥前国風土記』第日姫子説話考：異類婚姻譚と歌」（『國學院雑誌』115(10)、2014年）	異類、宗教
1116	田中美紀子「麻疹考：命定めの医療が意味するものとは」（『歴史民俗資料学研究』19、2014年）	病気、命
1117	丸本由美子「加賀藩救恤考（1・2）：非人小屋の意義と限界」（『法学論争・京大』174(5)、175(1)、2014年）	賤民、救済
1118	藤本大士「近世医療史研究の現在：民衆・公権力と医療」（『洋学』21、2014年）	医学史
1119	藤本清二郎「城下町世界の勸進者」（同『城下町世界の生活史』清文堂、2014年）	勸進
1120	神戸説話研究会編『論集 中世・近世説話と説話集』（和泉書院、2014年）	説話
1121	間瀬久美子「時代を映す「桃太郎譚」」（樋口州男他編『歴史と文学：文学作品はどこまで史料たりうるか』小径社、2014年）	説話
1122	浅川道夫「翻訳医書からみた幕末の軍陣医学」（『軍事史学』49(4)、2014年）	軍事、医学
1123	原剛「概説 戦傷病者に対する医療・援護体制」（『軍事史学』49(4)、2014年）	戦傷病者
1124	松田英里「1920年代における「癪兵」運動の展開過程」（『人民の歴史学』202、2014年）	癪兵
1125	リューブ、ゲイリー・P 著 藤田真理子訳『男色の日本史 一なぜ世界有数の同性愛文化が栄えたのか』（作品社、2014年）	性
1126	北村健太郎『日本の血友病者の歴史』（生活書院、2014年）	病気
1127	畑山信一『津軽落書考』（北方新社、2014年）	落書
1128	鈴木則子編『歴史における周縁と共生 一女性・穢れ・衛生一』（思文閣出版、2014年）	共生、性
1129	瀧澤利行「衛生思想の中の女性：その周縁性と共生性」（鈴木則子編『歴史における周縁と共生』思文閣出版、2014年）	衛生
1130	ゴッタルド・マルコ「近世日本における妊娠と間引き：媒介者としての産婆の役割（英文）」（『論叢』(玉川大学) 54、2014年）	命
1131	田村正彦「不産女地獄の表現史：差別と救済の思想」（大取一馬編『日本文学とその周辺』思文閣出版、2014年）	差別、救済
1132	西聡子「行き倒れ人関係史料にみえる遍路：近世後期阿波を事例に」（『西郊民俗』229、2014年）	行き倒れ
1133	林葉子「不妊の原因としての淋病：明治・大正期の庶民の生殖観の変化と売春の問題化」（鈴木則子編『歴史における周縁と共生』思文閣出版、2014年）	命、性
1134	板原和子「江戸時代後期の仙台藩における精神障害者処遇」（『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』12、2015年）	精神障害

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1135	横田武子「近世筑前瞽女考：江戸期視覚障害者政策：瞽女・座頭・盲僧」（『リベラシオン』157、2015年）	視覚障害
1136	高野信治「〈障害者〉への眼差し：近世日本の人間観という観点から」（荒武賢一朗他編『日本史学のフロンティア2 列島の社会を問い直す』法政大学出版局、2015年）	障害、人間
1137	郡山暢「「障害」の語史：言い換え語における漢語の中立性とその弱化」（『国語語彙史の研究』34、2015年）	障害、語彙
1138	糟谷知香江・坂田清美「障害を扱う絵本のリストに関する文献的検討」（『V I S I O』45、2015年）	障害、絵本
1139	田中徹二「盲人用文字の変遷」（『ノーマライゼーション：障害者の福祉』35(4)、2015年）	障害、補助
1140	森田昭二『盲人福祉の歴史 ー近代日本の先覚者たちの思想と源流ー』（明石書店、2015年）	視覚障害
1141	湯川博士「江戸語にみる障害者」（『ノーマライゼーション』35(6)、2015年）	障害、芸能
1142	相澤譲治「大規模障害者収容施設コロニー成立の歴史的背景」（『神戸学院総合リハビリテーション研究』10(2)、2015年）	障害、施設
1143	寺脇隆夫編『傷痍者・障害者福祉基本資料 第5巻 身体障害者福祉法の成立・施行』（柏書房、2015年）	身体障害
1144	川越敏司「山下麻衣編著『歴史のなかの障害者』」（『社会経済史学』80(4)、2015年）	障害
1145	吉田護昭「戦後から1950年代までの山口県の障害者福祉の実態に関する研究」（『川崎医療福祉学会誌』25(1)、2015年）	障害、福祉
1146	中村江里「十五年戦争期の傷痍軍人の援護と精神神経疾患」（『人民の歴史学』206、2015年）	精神障害、傷痍軍人
1147	中川正人「明治前期の仙台における視覚障害者」（『東北学院大学東北文化研究所紀要』47、2015年）	視覚障害
1148	デイヴィッド・ライト『ダウン症の歴史』（明石書店、2015年）	ダウン症、障害
1149	塙幸枝「映画における障害表象：コミュニケーションの問題として描写される障害」（『日本コミュニケーション研究』43(2)、2015年）	障害、映画
1150	池田仁子『近世金沢の医療と医家』（岩田書院、2015年）	医療
1151	永野正宏「19世紀前期の蝦夷地における痘瘡対策：種痘実施以前の在地社会を中心に」（『北海道・東北史研究』10、2015年）	病気
1152	藤本清二郎「城下町の賑わい・没落と卑賤視：物売りと物貰い」（『部落問題研究』213、2015年）	差別、生活
1153	森谷圓人「近世後期、困窮救済をめぐる地域社会と幕府代官所：出羽国村山郡の幕領郡中備金を事例として」（『歴史』125、2015年）	困窮、救済
1154	山田明「広瀬淡窓の人権思想と咸宜園教育」（『リベラシオン』160、2015年）	人権
1155	倉地克直『「生きること」の歴史学：徳川日本のくらしとところ』（敬文舎、2015年）	命、生活
1156	大杉由香「近代日本の福祉問題の歴史的特質：事例研究（戦間期における名古屋市及びその近郊と大阪市）から現代への連続と断絶を考える」（『部落問題研究』213、2015年）	福祉
1157	ジョン・ポーター「明治初期東京における貧民の救済と統制」（『部落問題研究』211、2015年）	貧民、救済
1158	黒川みどり・藤野豊『差別の日本近現代史：包摂と排除のはざままで』（岩波書店、2015年）	差別
1159	上田早記子「失業者対策と傷痍者対策の重複：障害者に対する職業訓練のふりわけ」（『大谷大学研究年報』67、2015年）	傷痍者、生活
1160	井村圭壯『日本の社会事業施設史：「救護法」「社会事業法」期の個別施設』（学文社、2015年）	社会事業、施設
1161	坂本砂智「女性の権利から見た堕胎罪と優生保護法、そして母体保護法」（『東アジア研究』63、2015年）	優生、女性
1162	岡本達明『水俣病の民衆史 1～6』（日本評論社、2015年）	公害病
1163	茂木潤「大正後期から戦後の乳幼児審査会の歴史的役割に関する文献的研究」（『東洋大学大学院紀要（社会学・福祉デザイン）』51、2015年）	医学
1164	青木歳幸編『西南諸藩医学教育の研究』（科研報告書）（青木歳幸、2015年）	医学、教育
1165	楠峰光『異形の人たち ー歴史の中の障害福祉ー』（文芸社、2015年）	異形、福祉
1166	上田正昭『歴史のなかの人権文化』（世界人権問題研究センター、2015年）	人権、文化

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1167	今井秀『近世の医療史：京洛・大坂ゆかりの名医：京洛・大坂ゆかりの名医』（ミヤオビパブリッシング、2015年）	医療
1168	谷原博信「桃太郎説話と絵巻」（『香川の民俗』77、2015年）	説話、異常誕生
1169	今成元昭他『説話と仏教』（法蔵館、2015年）	宗教、説話
1170	杉本弘幸『近代日本の都市社会政策とマイノリティ：歴史都市の社会史』（思文閣出版、2015年）	社会、マイノリティ
1171	田村由姫「優生保護法改正問題に関する史的考察」（『信大史学』40、2015年）	優生
1172	小林佳乃子「江戸時代における精神障害者の社会的位置づけに関する一考察」（『現代社会文化研究』62、2016年）	精神障害
1173	小川英彦『障害児教育福祉史の記録：アーカイブズの活用へ』（三学出版、2016年）	障害児教育
1174	利光恵子、松原洋子監修『戦後日本における女性障害者への強制的な不妊手術』（立命館大学生存学研究センター、2016年）	障害、女性
1175	岡田靖雄他編『精神障害者問題資料集成』全12巻（編集復刻版）（六花出版、2016年）	精神障害
1176	細渕富雄他編『精神障害兵士「病床日記」資料集成』全3巻（編集復刻版）（六花出版、2016年）	精神障害
1177	吉田優「〈講演〉江戸時代の村と庶民—古文書に現れた障害者」（『温故叢誌』70、2016年）	障害、社会
1178	海原亮「史実から見えてくる日本の医学教育 明治初期の鍼灸教育：温知社と楽善会訓盲哑院」（『鍼灸 Osaka』32(3)、2016年）	鍼灸、視覚障害
1179	末森明夫・高橋和夫「非文字史料における聾啞表象および手話言語表象」（『聾史研究』3、2016年）	手話、障害
1180	齋藤利和「わが国における性同一性障害の歴史」（『医学のあゆみ』256(4)、2016年）	同一性障害
1181	末森明夫・新谷嘉浩・高橋和夫「『豊国祭礼図屏風』『非人施行』における障害者表象及び聾啞表象」（『障害学研究』11、2016年）	障害、表象
1182	丸本由美子『加賀藩救恤考：非人小屋の成立と限界』（桂書房、2016年）	賤民、救済
1183	沢山美果子「赤子と母のいのちを守るための江戸時代の民間療法」（『研究報告』（歴博）40(3)、2016年）	命、医療
1184	沢山美果子「乳からみた近世社会の女の身体・子どものいのち」（『歴史科学』225、2016年）	身体、命
1185	木越治「疱瘡神のイメージ」（『近世部会誌』10、2016年）	疱瘡神
1186	森脇崇文「文禄4年豪姫「狐憑き」騒動の復元と考察」（『岡山地方史研究』138、2016年）	憑物
1187	金谷匡人「『防長風土注進案』『風俗』の項にみる人の一生と身体」（『山口県文書館研究紀要』43、2016年）	身体
1188	岩橋清美「近世社会における飢饉と言説」（『国史学』219、2016年）	飢饉、社会
1189	平田勝政「1930年代の地方優生運動と人権：1931年夏来日のジョンソン博士の優生学講演活動とその影響の検討」（『長崎大学教育学部紀要』2、2016年）	優生、人権
1190	有坂道子「江戸時代における京坂の医学」（『クロノス』38、2016年）	医学
1191	ポロヴニコヴァ・エレナ「食人と民間治療：近世信仰医療の一側面」（『日本宗教文化史研究』20(2)、2016年）	信仰医療
1192	松野聡子「在地修験寺院と「除病祈祷」文久期の秋田藩を事例に」（『地方史研究』379、2016年）	病氣、宗教
1193	高山真一郎・高山清玄「劇症な病氣説話に見る先人の思考」（『醫譚』104、2016年）	劇症病氣、説話
1194	竹島正他「傷痍軍人武蔵療養所の歴史：戦後の病院精神医学への影響も含めて」（『日本社会精神医学会雑誌』25(2)、2016年）	傷痍軍人
1195	今西聡子「日露戦争の傷病兵と地域社会：「名誉の負傷」をめぐる」（『鷹陵史学』42、2016年）	傷痍軍人
1196	前川直哉「男性同性愛の戦後史研究とジェンダー」（『歴史評論』796、2016年）	性、ジェンダー
1197	市野川容孝「優生学の歴史と出生前診断」（『日本医事新報』4836、2016年）	優生
1198	福田安典『医学書のなかの「文学」：江戸の医学と文学が作り上げた世界』（笠間書院、2016年）	医学、文学
1199	根岸美佳「手形を取るスサノオと異形の者たち：イメージの源流」（『北斎研究』57、2016年）	異形
1200	加美嘉史「戦前期京都の「浮浪者」対策」（『社会福祉学部論集』（仏教大）12、2016年）	行政、浮浪者

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1201	植野真澄「戦後日本の傷痍軍人：1960年代の白衣募金者問題」（『白山史学』52、2016年）	傷痍軍人
1202	清水寛編『ハンセン病児問題史研究：国に隔離された子ら』（新日本出版社、2016年）	ハンセン病
1203	香取俊光「江戸期の鍼灸・あん摩と視覚障害者：杉山流鍼術の江戸から明治の展開を中心に」（『社会鍼灸学研究』11、2017年）	視覚障害
1204	篠原由利子「心を病むことの体験と精神障害者処遇の歴史：PSWの視点からみた精神医療史」（『精神医学史研究』21(1)、2017年）	精神障害
1205	岡田靖雄「『精神障害者問題資料集成（戦後編）』の構想」（『日本医史学雑誌』63(2)、2017年）	精神障害
1206	愼英弘「障害者の歴史試論一本質と副次一」（『四天王寺大学大学院研究論集』11、2017年）	障害
1207	黒木雅美「明治期における精神看護の礎」（『太成学院大学紀要』19、2017年）	精神障害
1208	橋本明「精神病院へと収斂するもの、しないもの ―近代日本の精神病者施設の多様性と地域性を考える―」（『精神医学史研究』21(1)、2017年）	精神障害、施設
1209	山崎亮「障害者自立思想の源流：「青い芝の会」の宗教思想をめぐる」（『社会文化論集（島根大学）』13、2017年）	障害、宗教
1210	岩崎優・米田宏樹「戦後の「精神薄弱」に関する三木安正の思想：教育の場と方法に着目して」（『障害科学研究』41(1)、2017年）	知的障害
1211	末森明夫・高橋和夫「椀叩と唾表象」（『風俗史学』64、2017年）	言語障害、表象
1212	秋吉大輔「三島由紀夫「弱法師」における「盲目」への配置と抵抗：トラウマ的な視覚経験の語り」（『日本近代文学』96、2017年）	視覚障害
1213	飯島勤「田宮虎彦文学における「障害者」」（『信州豊南短期大学紀要』34、2017年）	障害、文学
1214	末森明夫 高橋和夫「狂言台本における聾唖態語彙表記の変容」（『国語語彙史の研究』36、2017年）	聴覚障害、狂言
1215	藤井渉「障害とは何か：戦力ならざる者の戦争と福祉」（法律文化社、2017年）	障害、戦争
1216	藤井渉「養護学校義務化が障害者福祉政策に与えた影響」（『社会政策』9(2)、2017年）	障害、教育
1217	菅達也「明治・大正期における盲唖学校の支援組織に関する歴史的研究」（長崎純心大学大学院人間文化研究科、2017年）	障害、教育
1218	木下知威「指文字の浸透 ―蘭学・洋学における西洋指文字に受容―」（『手話学研究』26、2017年）	障害、補助
1219	高野聡子「戦前期日本の精神薄弱児施設を対象にした精神薄弱児施設史研究の到達点および今日的意義と課題」（『特殊教育学研究』55(4)、2017年）	知的障害
1220	綾田すみれ「歴史的業績を残した人物に関する発達障害についての研究」（『臨床心理学研究』15、2017年）	発達障害
1221	蛭川万里菜・篠原百合子「優生思想と精神障害者に関する国内先行文献からの考察」（『祈りと救いの臨床』3(1)、2017年）	優生、精神障害
1222	高野信治「近世辞書『俚言集覧』にみえる〈障害〉表現：類型・認識の析出」（『九州文化史研究所紀要』60、2017年）	障害、俚諺
1223	中村江里「総力戦と日本の軍事精神医療：新発田陸軍病院入院患者の事例を中心に」（『年報日本現代史』22、2017年）	精神障害、戦争
1224	鈴木雅子「障害者と優生思想：相模原障害者殺傷事件から考える」（『歴史評論』810、2017年）	障害、優生
1225	寺西貞弘「本居大平肖像について」（『和歌山地方史研究』73、2017年）	家
1226	伊藤慎吾『擬人化と異類合戦の文芸史』（三弥井書店、2017年）	異類
1227	長島淳子『江戸の異性装者たち：セクシャルマイノリティの理解のために』（勉誠出版、2017年）	性
1228	沢山美果子「江戸の子どもたち―いのちを繋ぐ―」（『児童青年精神医学とその近接領域』58(4)、2017年）	命、子ども
1229	木下光生『貧困と自己責任の近世日本史』（人文書院、2017年）	社会、貧困
1230	ニールス・ファンステンパール『〈孝子〉という表象：近世日本道德文化史の試み』（ぺりかん社、2017年）	孝子、道德
1231	藤井克徳「相模原障害者殺傷事件に見る優生思想」（『保団連』1242、2017年）	優生
1232	秦健秀「知天真解『病堂策』における仏教と医療」（『仏教大学大学院紀要文学研究科篇』45、2017年）	宗教、医療

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1233	田中等『ハンセン病の社会史：日本「近代」の解体のために』（彩流社、2017年）	ハンセン病
1234	多田羅浩三『医学の歴史』（左右社、2017年）	医学
1235	永島剛他『衛生と近代：ペスト流行にみる東アジアの統治・医療・社会』（法政大学出版局、2017年）	衛生、社会
1236	福西征子『語り継がれた偏見と差別：歴史のなかのハンセン病』（昭和堂、2017年）	ハンセン病
1237	矢野治世美『和歌山の差別と民衆：女性・部落史・ハンセン病問題』（阿吽社、2017年）	ハンセン病、差別
1238	小堀光夫「菅江真澄が記した「かたる」の伝承：「こうろぎ」と呼ばれた「かたる」の系譜」（『昔話伝説研究』36、2017年）	差別、伝承
1239	崔南龍『一枚の切符：あるハンセン病者のいのちの綴り方』（みすず書房、2017年）	ハンセン病
1240	廣川和花「『和解』の時代の日本近代ハンセン病史：「顕彰」と「検証」を超えて」（『同時代史研究』10、2017年）	ハンセン病
1241	塚田孝『大坂民衆の近世史：老いと病・生業・下層社会』（筑摩書房、2017年）	老い、病気
1242	高野信治「近世仏教説話にみる〈障害〉」（『九州文化史研究所紀要』61、2018年）	障害、説話
1243	高野信治「〈障害〉の歴史性を考える」（『日本歴史』838、2018年）	障害
1244	荒井裕樹「日本文学に描かれた障害者像 ―がんばる健気な障害者―」（『季刊 福祉労働』161、2018年）	障害認識、文学
1245	好井裕明「文化・メディアにおける障害者表象をめぐって」（『季刊 福祉労働』161、2018年）	障害、表象
1246	高橋正雄「近代日本文学にみる障害受容論の系譜 ―夏目漱石から太宰治まで―」（『精神分析&人間存在分析』26、2018年）	障害、文学
1247	谷原秀信「細川忠興と江戸時代初期の眼科」（『日本眼科学会雑誌』122(9)、2018年）	視覚障害
1248	久松寅幸『近代日本盲人史：業権擁護と教育・福祉の充実を訴え続けた先人達』（東京ヘレン・ケラー協会、2018年）	視覚障害
1249	金川英雄他「精神障害者いやしの記録、江戸時代の加藤家文書」（『精神神経学雑誌』2018特別号、2018年）	精神障害
1250	早野禎二「精神障害と社会：歴史社会的視点から」（『東海学園大学研究紀要』（社会科学研究編）23、2018年）	精神障害
1251	立浪朋子「戦前・戦中期の少年教護における「精神薄弱児」への着目：鈴木一雄を中心に」（『新見公立大学紀要』38(2)、2018年）	知的障害
1252	中村満紀男『日本障害児教育史』（明石書店、2018年）	障害児教育
1253	五十嵐禎人「わが国の触法精神障害者処遇再考：矯正医療の視点から：わが国における触法精神障害者処遇の歴史と特徴」（『司法精神医学』13(1)、2018年）	精神障害
1254	本保恭子「昭和初期の障害児施設における教育的取り組みについて：「三田谷治療教育院」に在籍した知的障害児の例を通して」（『ノートルダム清心女子大学紀要（人間生活学・児童学・食品栄養学編）』42(1)、2018年）	知的障害、教育
1255	立浪朋子・岡典子「石川県の感化院・少年教護院における低能児の顕在化と特別低能学級開設への過程 1908（明治41）年～1935（昭和10）年」（『障害科学研究』42(1)、2018年）	知的障害、教育
1256	橋本明「明治初期の宗教政策と精神病者収容施設」（『日本医学史雑誌』64(2)、2018年）	精神障害
1257	岡田靖雄・橋本明「日本の精神科医療における呉秀三先生の業績」（『心と社会』49(2)、2018年）	精神障害
1258	川上輝昭「相模原・障害者殺傷事件の教訓」（『名古屋女子大学紀要（家政・自然編、人文・社会編）』64、2018年）	障害、社会
1259	立岩真也『病者障害者の戦後：生政治史点描』（青土社、2018年）	病者障害者
1260	日本精神衛生会編『図説 日本の精神保健運動の歩み』（日本精神衛生会、2018年）	精神障害
1261	中村江里『戦争とトラウマ：不可視化された日本兵の戦争神経症』（吉川弘文館、2018年）	精神障害、戦争
1262	清水寛『太平洋戦争下の全国の障害児学校：被害と翼賛』（新日本出版社、2018年）	障害教育、戦争
1263	日本盲人会連合編『視覚障害当事者の運動の歴史：日本盲人会連合70年史』（日本盲人会連合、2018年）	視覚障害
1264	全国障害者問題研究会編『全障研50年史：発達障害の半世紀』（同会出版部、2018年）	発達障害
1265	立浪朋子「20世紀後半以降の保育雑誌に見る障害児保育への言及とその動向」（『新見公立大学紀要』39、2018年）	障害、保育

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1266	福永良逸「『障害』の表記に関する一考察」（『九州大谷研究紀要』44、2018年）	障害、語彙
1267	世界人権問題研究センター編『中近世の被差別民像：非人・河原者・散所』（同センター、2018年）	賤民
1268	世界人権問題研究センター編『問いとしての部落問題研究：近現代日本の忌避・排除・包摂』（同センター、2018年）	賤民
1269	安岡健一「『古い』に集団でむきあうということ：戦後の地域社会を事例に」（『日本史研究』667、2018年）	古い
1270	蟻川誠「近世見世物における趣向の変遷と複合化」（『花園史学』39、2018年）	芸能
1271	藤本清二郎「紀州藩における旅人病人継ぎ送り政策の展開」（『紀州経済史文化史研究所紀要』39、2018年）	行き倒れ、社会
1272	入口敦志「〈シンポジウム〉医事説話の中興期：近世的合理思想への展開」（『説話文学研究』53、2018年）	医事、説話
1273	川原由佳里・川嶋みどり「目で見る日本の看護アーカイブズ：Art and Archives (File001) その起源を遡る」（『看護実践の科学』43(10)、2018年）	看護
1274	芹澤良子「猪飼隆明著『近代日本におけるハンセン病政策の成立と病者たち』（『日本歴史』836、2018年）	ハンセン病
1275	原田寿真「縁を結ぶ人々：国立ハンセン病療養所菊池恵楓園の弔い慣行から」（『日本民俗学』296、2018年）	ハンセン病
1276	川谷真「『物言わぬ子』と異類婿」（『比較民俗学会報』38(3)、2018年）	民俗、異類
1277	大杉由香「近現代日本の連帯と救済の歴史にみる生存と国家・社会」（『部落問題研究』227、2018年）	救済
1278	平田勝政「岩下壮一とハンセン病：祖国浄化論の検討」（『長崎大学教育学部紀要』4、2018年）	ハンセン病
1279	舟津悠紀「優生学の地域史：神奈川県優生行政の実態」（『日本歴史』841、2018年）	優生
1280	青木歳幸他編『天然痘との闘い 九州の種痘』（岩田書院、2018年）	天然痘
1281	近世歴史資料研究会編『日本差別史関係資料集成10、11 近世資料篇5、6』（科学書院（発売：霞ヶ関出版）、2018年）	差別
1282	樋原裕二「結婚からみる障害者の暮らしと障害観の歴史」（『障害学研究』15、2019年）	障害、生活
1283	狩谷尚志「日本における『障害』の定義並びに制度的対応に関する歴史的特徴：1940～60年代にかけての福祉6法の登場までを事例とする」（『日本重症心身障害学会誌』44(2)、2019年）	障害、福祉
1284	鴨井慶雄『子ども・障害のある人から見た明治150年：平和・自由・人権を』（クリエイツかもがわ、2019年）	障害、子ども
1285	岡田靖雄『もうひとつの戦場：戦争のなかの精神障害者／市民』（六花出版、2019年）	精神障害、戦争
1286	小国喜弘編『障害児の共生教育運動：養護学校義務化反対をめぐる教育思想』（東京大学出版会、2019年）	障害、教育
1287	木下知威「点字以前：18-19世紀の日本における盲人の身体と文字表記技術の交差」（『一滴』（洋学研究誌／津山洋学資料館 [編]）26、2019年）	視覚障害、補助
1288	スーザン・バーンズ（豊沢信子・訳）「近世日本の『俗医学』と医薬市場の空間」（荒武賢一郎編『近世日本の貧困と医療』古今書院、2019年）	俗医学、医薬
1289	高山真一郎「病因に対する先人の表現について」（『醫譚』126、2019年）	病気
1290	石川敦彦「萩藩の天然痘予防接種について」（『山口県地方史研究』122、2019年）	天然痘
1291	高野信治「病傷治癒信仰のなかの武士：〈治癒神〉という見方」（『九州文化史研究所紀要』62、2019年）	宗教、病気
1292	樋原裕二「大阪における介護の担い手と互助の歴史」（『地域社会福祉史研究』8、2019年）	介護
1293	樋原裕二「障害者・高齢者の介護と担い手の歴史」（『大阪市社会福祉研究』42、2019年）	介護
1294	佐藤匠「近代における孝子の顕彰と『史跡』の整備：奥州白石断の再評価と物語の『史実化』」（『アジア文化史研究』19、2019年）	孝子、道徳
1295	松原洋子編『優生保護法関係資料集成』1～6（六花出版、2019年）	優性
1296	平田勝政「後藤静香とハンセン病」（『長崎大学教育学部紀要』5、2019年）	ハンセン病
1297	中村治「南方熊楠・熊弥親子と岩倉」（『日本病跡学雑誌』98、2019年）	介護、家族
1298	木下光生「近世日本の貧困救済と村社会」（荒武賢一郎編『近世日本の貧困と医療』古今書院、2019年）	貧困、救済

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1299	鈴木啓孝「新聞『日本』と都市貧民」（『メディア史研究』46、2019年）	貧民
1300	中村江里「アジア・太平洋戦争と軍事精神医療：国府台陸軍病院除役退院患者の分析を中心に」（『日本史研究』691、2020年）	精神障害、戦争
1301	中村江里「心を病んだ兵士たちの記録：戦時下の国府台陸軍病院病床記録」（『千葉史学』76、2020年）	精神障害、戦争
1302	福田安典「障害史研究（Disability History Studies）のための日本古典文学研究序説」（『障害史研究』1、2020年）	障害、文学
1303	瀧澤利行「日本における養生論の文化」（『障害史研究』1、2020年）	養生、文化
1304	高野信治「〈障害者〉とその行方：地方（じかた）記録による実態研究の試み」（『障害史研究』1、2020年）	障害、生活
1305	高野信治「障害関連データ集〔1〕「耳囊」記事からの採録」（『障害史研究』1、2020年）	障害
1306	末森明夫「中古中世字書における聾啞吃字彙の受容と変容：聾概念と啞概念の独立性、聾概念と吃概念の連続性」（『ろう教育科学』62(1)、2020年）	障害、語彙
1307	高野信治「近世日本の国家・社会と〈障害者〉」（『歴史評論』842、2020年）	障害、国家社会
1308	星野岳義「中山太郎旧蔵『廻在座頭勸化帳』の解説：『続日本盲人史』余話」（『西郊民俗』251、2020年）	視覚障害
1309	樋原裕二「前近代における障害者・高齢者の移動と助け合い」（『大阪市社会福祉研究』43、2020年）	障害、老い
1310	足立洋一郎「近代初期盲（聾）教育における私立盲（聾）学校設立過程の特質」（『駿台史学』170、2020年）	障害、教育
1311	浅川茂実「「共生社会」の歴史と障害者施策についての考察」（『武蔵野短期大学研究紀要』34、2020年）	障害、施設
1312	澤村誠志「我が国における義肢装具の歩み」（『日本義肢装具学会誌』36、2020年）	障害、補助
1313	松田亮三「書評 立岩真也『病者障害者の戦後：生政治史点描』青土社、2018年」（『立命館アジア・日本研究学術年報』1、2020年）	病者障害者
1314	藤澤珠織「古病理学的ストレスマーカーが示す江戸時代人の健康と男女の格差」（『史林』103-2、2020年）	健康、性
1315	横田冬彦「近世前期の出産：大和国無足人山本平左衛門日記を素材に」（『史林』103-2、2020年）	命
1316	飯田直樹「近代大阪の「福祉」と民衆世界」（『歴史科学』241、2020年）	福祉
1317	杉本弘幸「「生存」と「福祉」のはざま：福祉資源の受益者からの再構成」（『日本史研究』692、2020年）	福祉
1318	小山聡子編『前近代日本の病氣治療と呪術』（思文閣出版、2020年）	病氣、呪術
1319	斎藤英喜「病氣治療と神話・祈祷：「土公鎮祭」から「大土公神祭文」へ」（小山聡子編『前近代日本の病氣治療と呪術』思文閣出版、2020年）	病氣、祈祷
1320	町泉寿郎「江戸時代医学史からみた病氣治療と運氣論」（小山聡子編『前近代日本の病氣治療と呪術』思文閣出版、2020年）	病氣、治療
1321	近藤瑞木「神職者たちの憑霊譚：『事実証談』の世界」（小山聡子編『前近代日本の病氣治療と呪術』思文閣出版、2020年）	宗教、崇り
1322	海原亮「日本近世における疫病流行と医療環境」（『歴史学研究』1003、2020年）	病氣、医療
1323	酒井亜希子「近世社会の疫病罹患者の忌避と救済：紀州藩領尾鷲組における「疱瘡」を事例として」（『部落問題研究』232、2020年）	病氣
1324	藤本清二郎「近世芸備地方の移動と行き倒れ（病人・死人）：19世紀の生存・救済」（『部落問題研究』233、2020年）	行き倒れ、救済
1325	藤本清二郎「近世の行倒片付、旅人病人対策の法的展開 —広島藩の場合—」（『部落問題研究』232、2020年）	行き倒れ、法
1326	沢山美果子『性からよむ江戸時代：生活の現場から』（岩波書店、2020年）	性、生活
1327	松岡弘之『ハンセン病療養所と自治の歴史』（みすず書房、2020年）	ハンセン病
1328	柏木亨介「ハンセン病療養所の歴史資料保存に関する調査報告」（『国立ハンセン病資料館研究紀要』7、2020年）	ハンセン病
1329	森修一・阿戸学「「近現代ハンセン病資料アーカイブス」の公開と今後の展開」（『日本ハンセン病学会雑誌』89(1)、2020年）	ハンセン病

No.	著者：著書・論文（雑誌・出版社、刊行年）	主題・キーワード
1330	黒野伸子・大友達也「古記録にみる明治期の医療観と医療行動：小寺家文書と信玄病院帳簿をてがかりに」（『日本医史学雑誌』66(2)、2020年）	医療
1331	末田邦子「戦前日本における方面委員による在宅精神病患者への相談活動：方面委員による手記の検討から」（『愛知淑徳大学論集（福祉貢献学部篇）』11、2021年）	精神障害
1332	飯塚修三「日本の指点字（Finger Braille）の母・福島令子」（『医譚』130、2021年）	視覚障害
1333	北村陽子『戦争障害者の社会史：20世紀ドイツの経験と福祉国家』（名古屋大学出版会、2021年）	障害、戦争
1334	山本聡美「発心の図像 ―中世仏教説話画に描かれた病と障害―」（『障害史研究』2、2021年）	障害、仏教説話画
1335	クウィーラ、ダーヴィト＝ドミニク「江戸中後期における〈障害児〉・〈奇形児〉の捨て子や子殺しに対する認識」（『障害史研究』2、2021年）	障害、奇形
1336	高野信治「武家夫婦の日記と病気記録 ―広島藩儒者頼春水・静子の〈障害〉認識を考える―」（『障害史研究』2、2021年）	病気、障害認識
1337	末森明夫「中世絵画史料《遊行上人縁起絵》《聖徳太子絵伝》《融通念仏縁起絵》諸本にみる不具および犬神人の描写に関する予備的考察」（『障害史研究』2、2021年）	障害、犬神人
1338	山下麻衣・藤原哲也・金城徹「矜持と労苦 ―傷痍軍人とその妻の戦後経験―」（『障害史研究』2、2021年）	傷痍軍人、家族
1339	木下直之「義足考 1904-2020」（『歴史と民俗』37、2021年）	補助
1340	松田英里「戦傷病者をめぐる国家と社会」（『歴史評論』854、2021年）	戦傷病者、国家社会
1341	町田祐一「近代下層社会研究の成果と課題」（『歴史評論』851、2021年）	下層社会
1342	樋原裕二「江戸時代における認知症高齢者の実態と周囲の人々の対応」（『地域福祉研究』49、2021年）	老い
1343	山下立「目鼻無き神々の像：滋賀・矢川神社、京都・稗田野神社の女神坐像を中心に」（『仏教史研究』59、2021年）	宗教
1344	笹方政紀「疫病と化物」（東アジア怪異学会編『怪異学講義 王権・信仰・いとなみ』勉誠出版、2021年）	病気、怪異
1345	青木歳幸他編『天然痘との闘いⅡ 西日本の種痘』（岩田書院、2021年）	天然痘
1346	藤本清二郎他編『「行倒れ」の歴史的研究：移動する弱者とその救済』（部落問題研究所、2021年）	行き倒れ
1347	浪川健治『北の被差別の人々：「乞食」と「革師」』（解放出版社、2021年）	差別
1348	蘭由岐子「ハンセン病療養所の戦後を記述する：ある入所者の生活史を通して」（『福祉社会学研究』18、2021年）	ハンセン病
1349	国立療養所菊池恵楓園入所者自治会・原田寿真監修「史料で読み直す菊池恵楓園、ハンセン病問題の歴史：開所から太平洋戦争終結まで」（同会、2021年）	ハンセン病
1350	松本武典「松本藩主水野忠恒の刃傷事件：俄か狂気についての考察」（『精神医学史研究』25(1・2)、2021年）	狂気
1351	古井透・古井正代「20世紀で終わらなかった優生思想：障害とともに生きる人生が必然の時代に」（『大阪河崎リハビリテーション大学紀要』15、2021年）	優性